信濃町の埋蔵文化財

役屋敷遺跡ほか

発掘調査報告書

―役屋敷遺跡・辻屋遺跡・西岡B遺跡・清水久保遺跡―

2007

長野県信濃町教育委員会

役屋敷遺跡ほか

発掘調査報告書

―役屋敷遺跡・辻屋遺跡・西岡B遺跡・清水久保遺跡―

2007

長野県信濃町教育委員会

例　言

1．本書は、信濃町教育委員会が受託を受けて、平成3年度から平成8年度にかけて発掘調査を実施した遺跡の発掘調査報告書である。遺跡名と委託者は下記による（敬称略）。

平成3年度・平成4年度　辻屋遺跡　㈱サトウ産業
平成4年度　役屋敷遺跡　荻原秀貞
平成5年度　西岡B遺跡（第1次）長野県開発公社
平成7年度　清水久保遺跡　㈱野尻レイクサイドリゾート
平成8年度　西岡B遺跡（第2次）㈱ツーカーセルラー東京

2．調査は、1の委託者から委託をうけた信濃町教育委員会が、平成3年12月16日から平成8年8月2日にかけて実施した。

整理作業は、平成4年6月よりはじめ、平成9年3月までにおこなった。

報告書の作成のための作業は、平成19年3月までにおこなった。

3．本書は、調査によって確認された遺構・遺物とその出土状況を中心に、基礎資料を提示することに重点をおいた。

4．本書の編集・執筆は、中村由克がおこなった。Ⅰ章「役屋敷遺跡」の5～9節は、中村敦子・中村由克の執筆である。

資料整理、編集に当たっては、佐藤ユミ子、今井美枝子、長谷川悦子、高橋　哲、中村敦子の援助を受けた。

5．調査によってえられた諸資料は、野尻湖ナウマンゾウ博物館で保管している。

出土資料の注記番号は、次のとおりである。

役屋敷遺跡	92ＹＫ
辻屋遺跡	91ＴＪ，92ＴＪ
西岡Ｂ遺跡（第1次）	93ＮＯＢ
西岡Ｂ遺跡（第2次）	96ＮＯＢ
清水久保遺跡	95ＳＭ

6．発掘調査・報告書作成にあたり、下記の諸氏にご指導・ご援助いただいた。記して謝意を表する次第である（敬称略）。

陶磁器・土器：市川隆之、仲野泰裕、東京大学埋蔵文化財調査室、小笠原永隆
清水久保遺跡：横山かよ子、牟礼村教育委員会、長野県教育委員会文化課、市村勝巳

目　次

例言・目次

	本文	図表	図版
Ⅰ　役屋敷遺跡	1	18	45
Ⅱ　辻屋遺跡	6	26	60
Ⅲ　西岡Ｂ遺跡（第1次調査）	8	28	64
Ⅳ　西岡Ｂ遺跡（第2次調査）	11	28	66
Ⅴ　清水久保遺跡	13	31	70
文献	17		
英文要旨	77		
報告書抄録	78		

I　役屋敷遺跡

1　概要

遺跡所在地　長野県上水内郡信濃町大字柏原字役屋敷
59-6、59-7、57-6、57-ロ、54-ロ
調査主体　信濃町教育委員会
調査面積　916㎡　（用地面積　4,041.49㎡）
調査期間　1992（平成4）年4月4日～6月18日
調査目的　商業店舗建設に伴う発掘調査
調査委託者　荻原秀貞

2　遺跡の位置

柏原の南部、伊勢見山の南麓で、鳥居川の北側にひろがる段丘面上に立地する。信濃町役場方面から流れる小さな開析谷があり、その南側に北西－南東方向にのびる小丘陵の先端付近の頂部に位置している。この丘陵の南東先端部の、段丘がやせ尾根状に延びているところが、東裏城跡である。谷の北側は、東裏遺跡になっており、北に1.5㎞つづく面積の広い遺跡である。

3　調査の概要

国道18号線沿いの宅地で店舗建設をすることになり、事前に発掘調査をおこなった。

1）調査体制

調査主体者　信濃町教育委員会　教育長　片山幹威
事務局　次長　山崎功一
係長　松村　修
文化財担当　渡辺哲也
調査担当者　中村由克

2）調査参加者

池田か己子、池田せい子、大島けさえ、小日向キヨ子、木村キミ子、片山トヨ、駒村和子、寺島三夫、常田八代恵、永原シズエ、福沢キサエ、丸山久二、横山たつ美、酒井敏子、小林由紀、松木一郎
記録　中村由克、中村敦子、渡辺哲也

3）調査経過

1992（平成4）年
4月4日　表土の機械掘削。
4月8日　柏原黒色火山灰層より縄文土器、土師器、近世陶器片など出土し、本格的な調査に入ることを決定。近世の溝状遺構を確認。
4月15日　発掘地南部で平安時代住居址を検出。座標杭設定。5ｍグリッド設定。
5月5日　小笠原永隆氏により縄文土器の鑑定をうけ、早期鵜ヶ島台式期のものと判明。
5月8日　近世～近代の住居址を確認。
5月16日　新聞報道　信濃毎日新聞、18日 毎日新聞。
5月17日　遺跡現地説明会を開催、40名参加。
5月14日　市川隆之氏により近世陶磁器の鑑定を受ける。
5月16日　建物址の平面図作成。
6月3日　掘削作業は終了。発掘機材の撤収。作業員は貫ノ木遺跡に移動。
6月4日　写真撮影。
6月5日　溝跡の実測図作成着手。
6月18日　現場テント撤収、あとかたずけ。

4　遺物の出土状況

約20cmの耕土を取り除き、柏原黒色火山灰層の上面に、遺構、遺物が確認された。発掘地の南端に平安時代住居址と土壙があった。そのすぐ北側に調査地を横断する近世の溝址があり、その北側に建物址が1軒確認された。遺物は、これらの遺構の中から大量に出土した。

5　平安時代の遺構

1）1号住居址（図6、図版1）

表土が薄く上半部のほとんどが耕作等によって削られ、

床面のみ残存していた。主軸方向N90°W、4.9m×4.6mの方形の竪穴住居址である。カマドは東壁中央よりやや北よりにあり、床面の焼土のみ確認できた。カマド南側に長円形のピットがあり、坏、小型甕などの多数の土師器片が発見され貯蔵穴と思われる。柱穴は北壁中央、南壁中央よりやや西側、東壁中央の壁面に沿うものと、北東隅の計4個認められる。径20～30cm、床面からの深さも20～30cmである。

2）1号土壙（図7、図版2）

主軸方向N38°E、5.5m×1.5m、深さ30～40cm、不整形な長円形の土壙である。性格は不明である。

6　近世の遺構

1）建物址（図8、図版2）

N37°E、3.6m×9.6m、おおむね2間×5間2尺の細長い建物址と思われる。柱穴は50～70cm、深さ10cm程の浅いピットに小石がつめられていた。柱穴の数は、東北・北西・南東側は3個、南西側は2個で一定していない。また、柱穴列と推定したピットのすぐ近くに同様のピットが1つあり、中から大甕の底部が出土した。

2）溝址（図8、図版1、2）

N9・10グリッドから北東方面のS7グリッドにむかう溝址がある。溝の上幅1.4～2.0m、底部0.4m、深さ0.9～1.3m、長さは発掘区域内で34mある。上流のN9・10グリッドは溝幅1.6m、長さ3.2mにわたって深さ1.6mになるやや広くて深い部分があり、水を一時的に溜めておく施設であったと思われる。南東側5.8mにわたって石垣が残されていた。また、北側から階段状に下に降りる施設がつくられていた。一定以上水が溜まると、北東側に流れる仕組みだったようである。遺物はこの部分から多数出土した。この部分が溝の先端にあたるかどうかは、上流側が発掘区域外となるため不明である。

P9地点の北側にも石垣が残されている。巨礫を2～3段に小口積みに積んでいる。下流部分についても、ゴミ穴等によって撹乱がひどく不明な点が多いが、そのまま北東側に延長されると思われる。

覆土は、レキ・砂まじりの層が徐々に堆積しており、下部層に18・19世紀の肥前系陶磁器が多数出土し、また、素焼きのほうろくや火鉢、ふいご羽口・砥石が出土している。中部から上部層にかけては、19世紀の肥前系磁器と19世紀から明治期初めまでの瀬戸・美濃系陶磁器、甕・ほうろく・硯・ふいご羽口・砥石が出土している。また、中部層からは1863年（文久3年）発行の古銭「文久永宝」が出土している。

溝が使用され廃棄された年代は、これらの遺物から18世紀から明治初めまでと考えられる。

7　平安時代の出土遺物（表1、図版4、5）

1）1号住居址

1号住居址から出土した遺物は359点で、あまり多くない。カマド南側の貯蔵穴と、住居の東北隅に集中していた。

軟質須恵器坏、黒色土器坏、土師器甕・小型甕、須恵器甕、土錘があるが、大部分は土師器甕の破片で、杯等の食器類はごくわずかである。軟質須恵器坏（1）は、底部のみで回転糸切り未調整、黄灰色の粗雑なものである。黒色土器・坏（2～5）はいずれももや粗雑なつくりで、黒色処理が不充分で口縁部が褐色のものもあり、内面のミガキが弱い。底部は回転糸切り未調整である。6は内外面を黒色処理した黒色土器が1点ある。

小型甕（7～13）は、土師器で口径14cm前後、底部約7cmで、ロクロ調整し、口縁部内面に弱いカキメ、底部は回転糸きり未調整である。土師器甕の破片数は多いわりに器形復元ができるものは少ないが、いずれも大形の甕である。口縁部内面に弱いカキメ、内面に弱いハケメの見られるものもある。外面体部から底部にかけてヘラケズリがある。12は、外面をヘラケズリによって薄く調整し、小さい平底を作り出している。13は部厚い丸底であり、外面を縦にヘラケズリし、内面はミガキ調整をしている。

2）1号土壙

出土遺物は164点で、黒色土器の坏・鉢、土師器甕と土錘がある。鉢15は外面及び底部をヘラ削りによって調整している。これは1号住居址内出土のものと接合した。出土遺物の大部分をしめる土師器甕16はロクロ調整で、

体部外面にヘラ削り、内面に弱いハケメのあるものもある。

3）その他

平安時代の遺物は、1号住居址近くの溝や耕土中からも発見された。軟質須恵器坏、黒色土器坏・椀皿、土師器甕、小型甕、須恵器甕である。

坏　黒色土器の坏は底部回転糸きり未調整で、内面をヘラミガキし、黒色処理をおこなっている。土師器坏21は回転糸切り未調整である。土師器と軟質須恵器の坏はごくわずかである。

椀　22は回転糸きり後高台をつけナデ調整している。内部の黒色処理は不充分である。

皿　23は黒色土器の皿で、内面を横へヘラミガキし、両面に黒色処理が施されている。

小型甕　24はロクロ調整の土師器である。

甕　27～30は口縁部外面をロクロナデしており、底部30は体部外面及び底部をヘラケズリした、平底である。須恵器・甕　31は甕の体部で、タタキ目で調整している。須恵器・小甕　32は須恵器の小甕であり、ロクロ調整である。

4）土錘（33～49）

土錘はいずれも管状土錘で17点出土し、そのうち住居址内から7点、土壙から1点出土している。形態は管状形のものが1点（35）紡錘形のものは大きさによって、2種類に分類できる。43はやや大きめで15.6gある。その他は長さ4cm前後、重さ5～10gである。破損の状態は一端あるいは両端が斜めに小欠しものが半数近くをしめる。

5）時期

1号住居址と1号土壙は、黒色土器鉢の接合や出土遺物の特徴が共通することから同時期と思われる。また、住居北側の溝や耕土中から出土した遺物も、住居址内の遺物が後世の攪乱によって移動した可能性が大きい。したがって、これらの遺物の特徴をまとめて考えてみたい。坏は黒色土器を主体とし、軟質須恵器と土師器がわずかにみられる。他に黒色土器の椀、鉢、内外面を黒色処理した皿がある。

出土遺物の大部分は煮炊具の甕である。北信に特有のロクロ甕で、口縁部外面をロクロナデ、内面に弱いカキ目、体部外面から底部にかけてはヘラケズリを行っている。底部は薄手に仕上げた小さな平底と、やや厚手の平底と丸底がある。小型甕もロクロ調整で、糸切底である。長胴甕に比べると底部が大きくどっしりとした安定した形である。貯蔵具は須恵器甕がある。これらの土器構成は長野県教育委員会（1990）の15期区分に従えば、8期に相当し、9世紀末ごろと推定される。

8　近世およびそれ以降の出土遺物

1）溝址出土遺物（表2、3、図版6～15）

溝から出土した遺物は、平安時代の土器を除くと、近世から近代にかけての陶磁器類が大半で、他に、砥石・ふいご羽口などの鍛冶関係遺物と、その他の日常生活用具がある。

磁器は肥前系、瀬戸・美濃系の製品があり、また、新しいものについてはよくわからない。器種は碗・皿が最も多く、そば猪口・小坏・鉢・向付・徳利・急須などがある。年代は、江戸時代後半の18世紀代のものが最も古く、大部分は19世紀のもので、新しいものでは幕末から明治期前半のものも含まれる。1～14は肥前系磁器の18世紀代の製品である。本遺跡の染付は素朴で質素なものが多いが、1、2の碗、5の皿には赤絵、金彩が施されている。5には底裏銘に「太明成化年製」とある。7はコンニャク印判の見込五弁花、6は底部が蛇ノ目凹形高台で18世紀に流行したものである。20～56は肥前系磁器の19世紀代の製品である。20～23は素書の蓋付の飯碗で、細い線描きが特徴である。21、23、24、28には焼継ぎの跡がみられ、長い間大切に使われていたものと思われる。30～40は粗略な山水文等の同形同文の皿類で、セットとして使われていたことがわかる。41～46は広東形の碗で、高台が高く口縁部が開く形である。63～80は、瀬戸・美濃系の製品で江戸末期から明治初めの頃のものである。碗は飯碗の他、湯のみなど種類が豊富になっている。

陶器は、18世紀代とわかるものに肥前系の碗（15～19）、19世紀代の瀬戸・美濃系の徳利（57、58）、油差し（59）、甕（60）、植木鉢（61、62）がある。61の植木鉢は、口縁部を打ちかいて火入れに再利用している。その他、産地、時期ともに特定できないが、徳利、土瓶、灯明具、

片口、甕、すり鉢などがある。

素焼きの土器では、ほうろくが多量に出土している(118~121)。口径32~33cm、器高5cmで、内耳があり、つるがかけられるようになっている。ただし、甕の破片はみあたらないので、木蓋が、使われていたと思われる。

日常生活用具では、硯・煙管・かんざし・はさみ・土人形と、古銭、瓦など出土している。硯はよく使いこんだものようである。煙管は雁首と吸口が出土しているが、非常に簡素なものである。古銭は「寛永通宝」と「文久永宝」がある。文久永宝は、文久3年(1863)発行の四文銭で、草文通用銭(松平慶永書)である。軒丸瓦と平瓦の破片が出土している。瓦自身はめずらしくないが、当地は豪雪地帯で雪葺き民家が大部分で、板葺き、瓦葺きは限られていた。

鍛冶師関係の遺物では、ふいご羽口6点、砥石15点が出土している。羽口2点は先端にガラス状にとけた鉱滓(スラッグ)が付着している。また、羽口の破片が付着した鉱滓(161)も出土している。火床の部分で溶けた羽口を鉱滓とともに処分したものであろう。

砥石はややきめの荒い安山岩製のものと、きめの細かい凝灰岩製のものがある。使いこんで湾曲したものや破片になっているものである。また、160は瓦を砥石に転用したものである。

9　桂屋与右衛門屋敷について

字役屋敷は、北国街道柏原宿の伝馬役屋敷から名づけられた名称である。1611年(慶長16年)北国街道の宿駅が確定され、伝馬役を行うものに屋敷地が与えられた。柏原宿は屋敷高13石2斗の年貢高2石6斗4升が免除された。伝馬役屋敷は、江戸時代を通じて免税地であった。

柏原地区の役屋敷は諏訪神社を南限に、北は現若月道嗣氏宅までの地域である。宿場特有の間口が狭く細長い屋敷割がなされ、西側24軒、東側28軒、計52軒の伝馬役屋敷が設定されている。間口の大きさは7間から25間で一定せず、平均すると11.1間(約20m)である。

発掘地は、国史跡小林一茶旧宅の北側で、宿場の中心部にあたる。現在の53、54、57、59番地は伝馬役屋敷2軒分で、特に57、59番地は柏原宿でもっとも大きい25間の屋敷間口をもつ桂屋与右衛門屋敷である。小林一茶と同時代の太三郎(明和6年、1769生)は、江戸にでて俳諧師の道をめざし、中村二竹という俳号を名のっている。一茶との交流が深く、一茶の日記にしばしば登場する。二竹は家業をつがず晩年は不明である。

与右衛門家は本陣中村六左衛門家の分家で、元禄10年(1697)頃から酒造業を営んでいたらしい。一茶晩年の文政の大火(文政10年、1827)では、母屋と土蔵2棟が焼失している。幕末には経営にいきづまり、酒造株、酒道具一式を質入している。この天保7年(1836)の「酒造株并稼道具諸色質入証文之事」(『中村家文書J)によると、

酒蔵	間口5間×奥行17間	
糀室	2間×	3間
水家	4間×	3間
水車小屋	6間×	3間
籾蔵	9間×	2間半

の建物があったことがわかる。ただし、水家、水車小屋は屋敷地ではなく、鳥居川沿いにあったと言われている。酒造関係の建物がその後どうなったか不明であるが、質入先の中村六左衛門が所有したと思われる。六左衛門は明治期に入り、「玉の井」という酒を製造するようになった。さらに、弘化4年(1847)の善光寺大地震で六左衛門の土蔵間口9間奥行2間半が全壊しているので、与右衛門から譲りうけた籾蔵が全壊したのかもしれない。この善光寺大地震では、与右衛門でも大被害となっている。

居宅全壊	間口8間×奥行4間半	
土蔵〃	5間×	3間
物置半壊	7間×	3間

文書資料にみられるこれらの建物は、発掘地より南西側の街道に面したところに建てられていたと思われる。発掘された建物址は、文書資料上に出てくる建物にはいずれにも該当しない。また溝址は57番地の南端にあり、与右衛門屋敷の南端に位置する。溝についても文書資料で確認できない。江戸時代には北国街道の中央を町用水が流れ、そこから枝分かれした用水が作られる場合は、管理や所有者の都合上、ほとんどが町絵図に記載されている。事実、小林一茶旧宅隣りの弥兵衛住宅南側の用水路は、通水幅1尺8寸(0.6m)、用水路敷地幅は3尺6寸(1.2m)で、小規模であっても記載されている。したがって、与右衛門屋敷内の溝が文書資料に見られないことは、街道中央の町用水からの通水はなかったかもし

れない。小さな池を作り余分な水を溝を通して放水していたとも考えられる。

与右衛門屋敷は明治期に入ると、中村六左衛門家の所有となり、「中村兄弟合名会社」の酒造関係の抵当に入っている。したがって酒造業に関する業務がこの付近で、引き続き行われていたと思われる。しかし、出土遺物の中に、ふいご羽口、砥石等の鍛冶関係遺物が多数出土する。柏原での鍛生産が活発化するのは江戸末期である。当時の鍛冶職人の所在地を確認するのは難しいが、柏原下町（新町）地区に多く、仲町（役屋敷）に住む鍛冶職人はあまり多くない。ただ、文書資料にあらわれない借屋人が鍛冶職人であった可能性がある。

江戸末期の与右衛門屋敷は、中村六左衛門に所有権が移転し、酒造業や借屋人によって鍛冶業が行われていた可能性がある。

10　縄文時代の遺物の存在（図版5、19）

今回の調査では、きわめて少量ではあるが縄文土器と石器が出土した。石器は、黒曜石製の石鏃1点、チャート製の掻器1点、黒曜石と玉髄の剥片各1点の合計4点である。石鏃は小さな三角形鏃である。掻器は幅広の縦長剥片の側縁から末端にかけて円形の刃部が形成されている。土器は、28点の小片があり、縄文時代早期後半の鵜ヶ島台式土器が確認された。褐色、厚手で、胎土には繊維をやや多く含んでいて、器面には条痕調整が施されている。文様は沈線で区画し、刺突列を加えるものや、矢羽根状の沈線が引かれるものの破片が見られる。また、段の部分の破片もあり、鵜ヶ島台式土器の特徴がみられる。

11　まとめ

役屋敷遺跡の発掘調査では、縄文時代、平安時代、江戸時代および明治初期の多くの成果があった。

最初にこの場所に人々が住んだのは縄文時代早期の後半で、約7000年前頃であるが、石器・土器ともに断片的で、その実態は不明である。

平安時代になると、竪穴住居址1軒と土壙が検出され、土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器などが出土し、それらの出土品から9世紀末ごろのものと推定された。とりわけ、土錘が17点まとまって出土したが、このような出土例は野尻湖西岸の仲町遺跡1号・2号住居址（野尻湖人類考古グループ1993）と仲町遺跡3号・4号住居址（中村編2000）に知られている。役屋敷遺跡は鳥居川に近く、漁労が生業に大きな役割を占めていたことを意味するものといえよう。

江戸時代には、1軒の建物址と溝址が検出され、溝址からは大量の陶磁器、日常生活用具、鍛冶関連遺物が出土した。古いものとしては、18世紀代の肥前系磁器（伊万里焼）の染付、唐津系陶器（唐津焼）の碗などがあるが、大半は19世紀の肥前系磁器（伊万里焼）、瀬戸・美濃系陶磁器や産地不明の陶器類で、新しいものでは幕末から明治の初期のものも含まれる。

発掘地は、国史跡となっている小林一茶旧宅のすぐ北側に位置し、柏原宿本陣の中村六左衛門家の分家で、当時宿場内で最も大きな屋敷間口をもっていた桂屋与右衛門屋敷にあたる。柏原宿は、近隣の北国街道沿いの多くの宿場と同様に、何度も大火災にあい、小林一茶に限らず、同時代の生活用品がほとんど残されていない。今回の発掘で一茶時代の宿場の生活用具が大量に出土したことは、北信地域の近世史にとどまらず、一茶研究にも貢する貴重な同時代資料が得られたといえよう。

Ⅱ　辻屋遺跡

1　概要

遺跡所在地　長野県上水内郡信濃町大字穂波字南平145-1、15-1、150-2
調査主体　信濃町教育委員会
調査面積　517.8㎡
調査期間　1991（平成3）年12月16日・17日、
1992（平成4）年7月7日～11月19日
調査目的　事業所建物建設に伴う発掘調査
調査委託者　株式会社サトウ産業

2　遺跡の位置

辻屋遺跡は信濃町の富士里地区大字穂波の南部に位置し、国道18号線にそった辻屋東方の標高735.6mの山地の西斜面から滝沢川に面した低地に広がっている。

3　調査の概要

国道18号線沿いの宅地で事務所建設をすることになり、事前に発掘調査をおこなった。

1）調査体制

調査主体者　信濃町教育委員会　教育長　片山幹威
事務局　次長　山崎功一
係長　松村　修
文化財担当　渡辺哲也
調査担当者　中村由克

2）調査参加者

池田か己子、池田せい子、小日向キヨ子、木村キミ子、片山トヨ、常田みゆき、永原シズエ、永原よしみ、福沢キサエ、横山たつ美、二本松昭夫、中村敦子

3）調査経過

1991（平成3）年
12月16日・17日　表土の機械掘削。ジョレンを使用して、遺構・遺物確認。

柏原黒色火山灰層より土師器、近世陶器片など出土し、平安時代から中世および近世以降の遺構が存在する可能性があるので、本格的な調査に入ることを決定。平成3年度の調査を終了する。

1992（平成4）年
7月7日　遺構確認の調査。
7月10日　5mグリッド設定。中世の溝跡、土壙、建物址を確認。
7月15日　井戸址の発掘開始。
これ以降、グリッド線（水糸）、境界ロープが切断される現象がおこる。後日、野生動物の仕業だと判明する。
7月20日　遺構実測、遺物測量、取り上げ。
7月29日　遺跡発掘面の保護のため、水撒きを開始する。
7月30日　遺構のライン引き（白縄を使用）。
7月31日　全域の清掃。写真撮影。発掘面にシート掛け。発掘一時中断。
9月14日　発掘再開。住居址の実測開始。
9月18日　井戸址2号、3号の発掘。順次、遺構の実測。
10月4日　遺跡現地説明会、24名参加。
10月23日　写真撮影。地質調査。現場撤収、後片付け。
～11月19日　遺構実測、測量終了。

4）その後の状況

平成10年11月20日に調査地および周辺に事業所の建物が建設されることになり、周辺地については立会い調査をおこなったが、遺構・遺物は確認されなかった。

4　遺物の出土状況・層位

1）出土状況

約20cmの耕土を取除き、柏原黒色火山灰層の上面に遺構、遺物が確認された。発掘地のほぼ中央部に、中世の建物址があり、その南側に溝状遺構が確認された。発掘地の北部と南部には、多数の柱穴と思われる土坑が検出

された。中央の建物址の周辺からは、土師質土器の皿、内耳鍋、珠洲焼の擂鉢、壷、古瀬戸、青磁などの破片や宋銭が出土した。

5　中世の遺構（図12、図版16、17）

1）建物址

発掘地のほぼ中央のB・C・D-5・6に東西方向で、11.52×4.48mの大きさである。15以上の柱穴があり、東端に焼土がみられた。

2）溝状遺構

建物址の南東端から南側に浅い溝状遺構が位置している。幅約2m、長さ11.4m以上確認される。周りには、小さな柱穴が並んでいる。

3）井戸址

溝状遺構の南端に井戸跡があり、直径約1.4m、深さ2.1mほどである。

6　近世以降の遺構

1）建物址

発掘地北部で4軒、南部で3軒の建物址が確認された。近世ないし近現代の時期に属すものと思われる。

2）井戸跡

北部より1基、確認された。

7　出土遺物（図版18、19）

土師質土器（1～14）

皿が11点出土している。1はD6グリッド出土の4点の破片が接合する1/2弱の口縁部である。他に口縁部破片が7点、底部破片が3点ある。破片数の出土グリッドは、D7が5点、D6、D8が3点、C6、D3が1点であり、中央の建物址周辺に集中する。

土師質土器　茶碗か香炉の口縁部破片2点があり、接合する。B6グリッド出土。

土師質土器　壷底部が2点ある。

青磁（15、16）

C5、C6グリッドから小破片2点が出土している。

古瀬戸（17、18）

C6、D6グリッドより壷胴部の破片2点が出土している。

内耳鍋（19）

口縁部の大きな破片が、発掘地北部で採集されている。

珠洲焼（20～34）

擂鉢　C5グリッドで3点、C6グリッドで1点、採集品で1点ある。内面には直線的な卸し目がまばらに施文されている。

珠洲焼　壷胴部の破片が7点あり、D5グリッドで3点、C6グリッドで2点、3号井戸で1点出土している。壷底部がC6、D5グリッドに2点出土している。

砥石（36～41）

D5グリッドに3点、C6、D4、D6、D7グリッドに各1点の計7点出土している。石材はやや緑がかった灰色の凝灰岩が3点、黄白色凝灰岩が1点、粗い砂岩が3点である。

銭貨（43～45）

3点あり、北宋銭の「皇宋通寶」（篆書）、「皇宋通寶」がD8グリッドに各1点で、ほかに不明品がC6グリッドに1点ある。「皇宋通寶」は、初鋳が1039年であるが、日本各地の中世遺跡から多く知られているものである。

8　まとめ

建物址を中心に、溝状遺構、井戸跡などの中世遺構の周辺からは、土師質土器、青磁、古瀬戸、内耳鍋、珠洲焼、砥石、銭貨などの遺物が出土した。珠洲焼の擂鉢（片口鉢）の卸し目からは、珠洲系陶器編年（吉岡1989）のV期、15世紀前半のものと推定される。また、内耳鍋は15～16世紀に生産されたものである。

Ⅲ　西岡Ｂ遺跡（第１次調査）

1　概要

遺跡所在地　長野県上水内郡信濃町大字柏原字西岡
調査主体　信濃町教育委員会
調査面積　150㎡　（開発面積　13,000㎡）
調査期間　1993（平成５）年６月２日～６月18日
調査目的　高速道代替地造成工事に伴う発掘調査
調査委託者　長野県土地開発公社

2　遺跡の位置

西岡Ｂ遺跡は信濃町の柏原地区大字西岡に位置し、国道18号線にそった大平の標高730.2ｍの山地の南斜面に広がっている。すぐ北側は貰ノ木遺跡、南東側は上ノ原遺跡が近くに分布している。

3　調査の概要

高速道代替地（大平）造成工事の工事現場から旧石器時代の遺構・遺物が発見されたため、緊急に発掘調査をおこなった。

1）調査体制

調査主体者　信濃町教育委員会　教育長　片山幹威
事務局　次長　山崎功一
係長　松木武夫
文化財担当　渡辺哲也
調査担当者　中村由克

2）調査参加者

池田かこ子、池田せい子、小日向キヨ子、木村キミ子、片山トヨ、小林光意、佐藤ユミ子、関塚　恒、杉浦栄子、常田八代恵、中村リュウ子、中村ヨネ子、永原シズエ、福沢キサエ、横山たつ美、若月ケサノ、若月邦子、渡辺稔

記録：中村由克、中村敦子、渡辺哲也

3）調査経過

6月２日　旧石器時代の遺構・遺物の発見地周辺の発掘作業に着手。出土層準が上Ⅱ上部文化層であることを確認。
6月８日　下位の試掘調査で、黒色帯上部文化層より石核、剥片が出土。
6月11日　県高速道事務所の担当者が来跡し、期間を18日まで延長することが決定。東裏遺跡から、作業員の応援をしてもらう。
6月12日　県埋蔵文化財センターの岡村秀雄、鶴田典昭、中島庄一、広瀬昭弘の各氏が見学。
6月16日　重機により上Ⅱ最下部まで掘削。下の黒色帯上部文化層を発掘。
6月17日　発掘、写真撮影。実測。
6月18日　発掘、写真撮影。実測。遺物取り上げ。調査終了し、撤収作業。

4　遺物の出土状況・層位

1）層位

上位より柏原黒色火山灰層60㎝、モヤ20㎝、上Ⅱ黄褐色ローム20㎝、黒色帯15㎝という層序である。旧石器時代の文化層は、黄褐色ローム層上面付近の上Ⅱ上部文化層と黒色帯上半部の黒色帯文化層の２層である。

2）出土状況（図15）

上Ⅱ上部文化層（上層）からは、礫群１基、ナイフ形石器、彫器、スクレイパー、石刃、横長剥片、石核などが出土した。黒色帯文化層（下層）からは、配石１基、局部磨製石斧、石斧、ナイフ形石器、台形石器、スクレイパー、敲石、剥片などが出土した。

出土遺物数は、石器207点、礫118点の計325点である。ブロックは、Ｆ８、Ｆ９からＤ～Ｇ10にかけての北東－南西方向にひろがり、幅10ｍ、長さ20ｍ以上と推定される。ブロックの南部は未発掘区である。

5　遺構

1）礫群（図16、図版21－3・4）

上Ⅱ上部文化層のD・E－10グリッドに位置し、1.6×1.2mの範囲に礫径12～24cmで、亜角礫を一部含み、亜円礫を主体とする15個の礫から構成される礫群である。礫群からそれぞれ南北1mのところに20cm大の礫が各1点、および小さな礫1点があり、これらを含めると18点からなる。礫は全体に焼けた状態がみられ、2種類に大別される。①焼けが進んだものは、黒ずんだ赤褐色のタール状の付着物が全体を被う。②全体が橙褐色に焼けているが、光沢はない。

2）配石（図17、図版21－8）

黒色帯文化層のE9グリッド南東部に、1.0×1.7mの範囲内に16～20cmの円礫1点と角礫4点がまばらに配置される。

6　出土遺物（図版23、24）

1）上Ⅱ上部文化層（上層）

礫群を中心にその周辺からは、182点の石器、礫が出土した。主な石器は、以下のとおりである。

ナイフ形石器（1～4）

黒曜石製の1・2は縦長剥片を素材として、2側縁に加工が施されている。背側の加工は、表裏両面からおこなわれている。3は、黒曜石製の小さく厚い縦長剥片の打面側の主剥離面に面的な加工が入れられ、反対側は背面に刃つぶし加工がおこなわれている。

頁岩製の4は石刃を素材とし、末端に刃つぶし加工がおこなわれるナイフ形石器である。

彫器（5）

灰色のチャート製の縦長剥片を素材とし、剥片の側縁にそって調整加工がおこなわれた後に剥片の末端部からファシットが入れられた上ゲ屋型彫器である。

スクレイパー（6）

灰色のチャート製の石刃を素材とし、両側縁にノッチ状の加工が施されたノッチド・スクレイパーである。

石刃（7～14）

珪質頁岩製の中～小形のもの5点（7～11）、チャート製の小形のもの3点（12～14）がある。石刃石核はみられない。

横長剥片（15、16）

流理構造のめだつ無斑晶質安山岩製で、流理に直交方向に剥いだ剥片で、打面は調整されたものと、されないものがある。

横長剥片石核（17、18）

流理構造のめだつ無斑晶質安山岩製（17）で、流理方向に剥がされた剥片を素材とした石核で、表裏両面に剥片剥離がおこなわれている。1点（18）は、白色凝灰岩製である。

2）黒色帯文化層（下層）

配石を中心にその周辺からは、137点の石器、礫が出土した。主な石器は、以下のとおりである。

局部磨製石斧（20）

砂岩ホルンフェルス製の幅広の剥片を素材とし、両面に剥離が入れられて器形を整えた後、刃部の両面に研磨がおこなわれている。長さ73mm、幅36mm、厚さ15mmと、小形の局部磨製石斧である。

石斧未成品（21）

凝灰質砂岩の大型剥片を素材として、荒い剥離で器形を作り出し、基部側の1側縁と先端部にわずかに細かい加工が入れられている、石斧の未成品である。

台形石器（22～28）

黒曜石3点（22～24）、無斑晶質安山岩2点（25、26）、玉髄1点（27）、凝灰岩1点（28）がある。黒曜石製の2点は入念な加工が加えられたもので、大きいもの（22）は長さ53mm、幅29mm、厚さ12mmという大形のものである。幅広の剥片の側縁を刃部として、打面と末端側に加工をおこない台形の形状を整えている。小さい方（23）は、長さ32mm、幅13mm、厚さ7mmである。小形の横長の剥片の側縁を刃部とし、打面側と末端側の表面に細かな加工で、器形が整えられている。

この他のものは、基部にわずかな加工が施されるものである。白色凝灰岩製のもの（28）は、幅広剥片の突出した側縁を先端部として、打面側と末端側の主剥離面に加工がおこなわれているペン先形の形態を呈するものである。

ナイフ形石器（29）

黒曜石の石刃を素材として、1側縁に刃つぶし加工が施されている。基部は欠損。

敲石（30）

長さ126㎜、幅78㎜、厚さ50㎜、重量712ｇの大形の敲石である。扁平な白色凝灰岩の円礫を素材として、上下両端に打痕が認められる。一般的な石器製作用のものよりは大形であるので、骨の剥離や木の実などの植物加工などの用途に関係したものかもしれない。

石刃（19）

白色凝灰岩製の石刃が1点ある。微細剥離痕が認められ、使用されたものである可能性がある。

7　まとめ

貫ノ木遺跡と上ノ原遺跡に挟まれた大平の山地南斜面に、旧石器時代の2文化層が確認されたことにより、あらためてこの周辺地域が濃密な遺跡分布地であることが印象付けられ、その後、高速道と国道バイパスの発掘調査の実施に当たっても、遺跡分布の予測に貢献する成果となった。

上層の上Ⅱ上部文化層には、3群の石器群がみられる。一番多い石刃を主体とする石器群は、上ゲ屋型彫器を含み、長野市上ゲ屋遺跡のa石器群に相当する杉久保石器群と思われる。ナイフ形石器は伴っていない。

横長剥片とその石核は、仲町遺跡、東裏遺跡、上ノ原遺跡（第5次）、西岡A遺跡などにみられるいわゆる国府系（瀬戸内系）石器群に属すものであり、完形品は含まれない。杉久保石器群と国府系石器群は、野尻湖遺跡群では上Ⅱ上部文化層に多くみられ、層位的にはほとんど区別できない産状が確認されているものである。

黒曜石製のナイフ形石器3点は、野尻湖遺跡群では類例が少なく、前述の2石器群との先後関係などは不明である。

Ⅳ　西岡Ｂ遺跡（第２次調査）

1　概要

遺跡所在地　長野県上水内郡信濃町大字柏原字西岡1240-1
調査主体　信濃町教育委員会
調査面積　516.51㎡
調査期間　1996（平成８）年７月11日～８月２日
調査目的　移動電話アンテナ建設に伴う発掘調査
調査委託者　株式会社ツーカーセルラー東京

2　遺跡の位置

西岡Ｂ遺跡は信濃町の柏原地区字西岡に位置し、国道18号線にそった大平の標高730.2ｍの山地の南斜面に広がっている。すぐ北側は貫ノ木遺跡、南東側は上ノ原遺跡が近くに分布している。平成５年の第１次調査地の東に隣接する。

3　調査の概要

株式会社ツーカーセルラー東京移動電話アンテナ建設が予定されたため、事前に発掘調査をおこなった。用地内の建物予定地２か所を発掘した。

1）調査体制

調査主体者　信濃町教育委員会　教育長　小林一盛
事務局　次長　北村敦博
係長　松木武夫
文化財担当　渡辺哲也
調査担当者　中村由克、　担当職員　高橋　哲

2）調査参加者

金子房江、小林正義、駒村幸男、佐藤儀信、竹内晴江、竹内ゆき子、村田達哉、横山真理子、長谷川悦子
記録：今井美枝子、佐藤ユミ子、高橋　哲

3）調査経過

７月11日　重機による表土はぎ。
７月15日　試掘調査開始。
７月19日　黒色帯文化層より遺物出土を確認。
７月24日　人員を増やし発掘調査開始。
７月31日　発掘。遺物、発掘全景の写真撮影。平板による遺物・地形測量。遺物取り上げ。
８月２日　標高の測量。調査終了し、撤収作業。

4　遺物の出土状況・層位

1）層位

上位より表土15㎝、柏原黒色火山灰層34㎝、モヤ上部10㎝、モヤ下部７㎝、上Ⅱ上部10㎝、上Ⅱ下部13㎝、上Ⅱ最下部10㎝、黒色帯18㎝、上部Ⅰ５㎝＋という層序である。旧石器時代の文化層は、黒色帯上半部の黒色帯文化層である。

2）出土状況（図18）

南側の調査区１からは、やや集中して31点の石器、礫が出土した。そのほとんどは黒色帯文化層のものである。北側の調査区２からは、５点の遺物が出土した。

5　出土遺物（図版25）

1）黒色帯文化層

石器24点、礫12点の合計36点が出土した。主な石器は、以下のとおりである。

敲石（40）

砂岩製の長細い円礫を素材として、一端に打痕が多く残される。側縁の一部にも浅い打痕がみられる。他端は新鮮な破損面となっている。記録時点では、現状の形であったが、この破損面が発掘時のガジリ破損なのか、あるいはそれ以前に破損した遺物が撹乱によりローム層中に入り込んだものかは、今となっては判断できない。出土状況写真ではよく判断できないが、記録時には木の根

等による撹乱がなかったことを証明できていないので、この敲石が黒色帯文化層のものとすることは保留したい。

剥片・石核（31～39）

無斑晶質安山岩製の幅広剥片が多い。

6　まとめ

本調査地点では、黒色帯文化層から剥片、石核を中心とした遺物が出土したが、石器の完形品がほとんど伴っていなかったので、この地点の性格については不明である。第1次調査地点には、黒色帯文化層の良好な石器群が出土しているので、この遺跡は本来、後期旧石器時代初めの石斧文化の頃の大規模遺跡であった可能性も考えられる。本調査地点との間の部分は、第1次調査の開始以前にすでに削平されていていたので、遺跡の広がりについては今となっては不明である。

V　清水久保遺跡

1　概要

遺跡所在地　長野県上水内郡信濃町大字大井字向原
調査主体　信濃町教育委員会
調査面積　1,500㎡（開発面積　16,000㎡）
調査期間　1995（平成7）年6月5日～9月12日
調査目的　ゴルフ場建設工事に伴う発掘調査
調査委託者　株式会社野尻レイクサイドリゾート

2　遺跡の位置

清水久保遺跡は信濃町南部の富士里地区大字大井字向原、清水久保に位置し、国道18号線と県道長野信濃線にはさまれた山間の傾斜地と谷地に広がっている。牟礼村（現飯綱町）との境界に位置し、すぐ南側の尾根部には縄文時代を中心とする宮浦遺跡（牟礼村調査）が位置する。

3　調査の概要

信濃ゴルフ倶楽部（ゴルフ場）を建設することになり、事前に発掘調査をおこなった。

1）調査体制

調査主体者　信濃町教育委員会　教育長　片山幹威
事務局　総務教育課長　若月英雄
係長　松木武夫
係　高橋　哲
文化財担当　渡辺哲也
調査担当者　中村由克　担当職員　高橋　哲

2）調査参加者

池田か己子、池田せい子、井沢キヨエ、石田正剛、梅木あきひさ、梅木ちかえ、大草あや子、小日向キヨ子、木下絹江、木下浩一、木村キミ子、片山トヨ、小板橋みつ江、小林正道、小林正義、佐藤清子、佐藤儀信、篠田正枝、渋沢ユキ子、高野孝司、竹内功、竹内ゆき子、竹内晴江、戸谷田千代子、中村フサ子、東　貫、藤原伊久栄、松岡さとみ、丸山　修、丸山龍夫、水澤長元
記録：今井美枝子、佐藤ユミ子、万場弘美、高橋　哲

3）調査経過

6月5日　重機による表土剥ぎ。清水久保遺跡の牟礼村分は信濃町で調査し、長山遺跡は牟礼村が分担することを決定。
6月28日　発掘着手。
7月7日　市道遺跡を撤収し、全面的に清水久保遺跡の調査に入る。
7月19日　焼土を確認、遺構の分布を確認。
7月24日　平安時代住居址の発掘開始。
8月9日　2号住居址の発掘。
8月11日　グリッド設定。
9月5日　1号住居址の発掘完了。
9月12日　1～3号住居址の写真撮影、調査終了、撤収。

4　遺物の出土状況

出土状況（図21）

表土を掘削後、柏原黒色火山灰層の上面に平安時代の遺構、遺物が確認された。さらに、柏原黒色火山灰層の下部より縄文時代早期の押型文土器などが出土した。なお、縄文早期の遺物分布は、牟礼村（現飯綱町）地籍に入り、宮浦遺跡のある山の直下の低湿地の山麓部に多くみられた。

5　遺構（図22～25、図版26）

平安時代住居址

1号住居址

5K－E8と5P－E1グリッドにまたがり、北西－南東方向5.44m、北東－南西方向6.68mのほぼ方形のプランをもち、かまどは南東端に位置する。床面近くまで

表土が削剥していたので、立ち上がりは観察されていない。

2号住居址

5R－A4・A5、B5グリッドにまたがり、北北西－南南東方向を主軸に、南北5.6m、東西5.4mでやや丸いプランをもつ。かまどは北西端に近いところに位置する。

3号住居址

5V－H4・H5、5W－A4・A5グリッドにまたがり、床面近くまで表土が削剥していたので、立ち上がりは観察されていない。南側の壁面は残存せず、検出できなかった。かまどは北西端に近いところに位置する。

6　縄文時代の土器（図26、27、図版28）

1）縄文時代早期の土器

表裏縄文土器（1～4）

外反する薄手の土器で、1、2の口縁部裏面には縄文が1条施されている。3、4は胴部破片。暗褐色の砂質胎土で、細粒の石英、黒雲母がめだつ。

押型文土器（5～6）

5は褐色薄手の土器で、山形文が縦位に密接施文されている。胎土には砂粒が少ない。6は褐色の土器で、細目の楕円文がランダムな方向に重複施文されている。繊維をやや多く含む。

沈線文土器（7～10）

7～10は細目の沈線を横位、斜位に引く土器で、暗褐色で胎土に少し繊維を含む。

絡条体圧痕文土器（11～20）

11～17はやや薄手の褐色～暗褐色の土器で、表面には斜位に撚糸圧痕文と思われる文様がつけられている。15の下部には、わずかに絡条体圧痕文が認められる。また、17の下部には、爪形刺突が横位につけられている。

18～20は曲線的なイモ虫状圧痕をもつ絡条体圧痕文土器である。褐色で繊維を含み、裏面には条痕調整がみられる。

2）縄文時代前期の土器

縄文土器（21～25）

21～24は褐色～淡赤褐色で、羽状縄文が施された土器である。胎土には繊維を含んでいない。

25は、単節縄文が施された厚手で、口縁部が内湾する土器である。

竹管文土器（26、27）

26、27は竹管文による集合沈線文土器である。26はやや砂質の胎土で、石英、黒雲母、軽石などを混入する。

3）時期

縄文時代早期前半の表裏縄文土器は、市道遺跡の押型文Ⅰ群（中村2001）とした立野式土器に伴うものである。押型文土器は、Ⅳ群の塞ノ神式土器に属すものである。

早期後半の沈線文土器は、これまで信濃町内ではあまり類例のないものであるが、東裏遺跡町道柴山線地点の沈線文Ⅱc群（中村2004）としたものに近いと思われる。絡条体圧痕文土器は、いづれも信濃町では類例が知られていないもので、詳細はわからない。曲線的なイモ虫状圧痕をもつものは、岡谷市膳棚B遺跡1号住居址などにいくらか近い類例が報告されており、早期末の東海系土器群に伴うものとされている（綿田弘実1993；小熊博史1989）。

縄文時代前期の土器は、いづれも胎土に繊維を含まないことから、諸磯a式～諸磯c式に並行するものと思われる。

なお、旧牟礼村地籍分の調査では、縄文時代早期前半の土器群が多く出土している。

7　縄文時代の石器
（表5、図28、29、図版29）

1）石器の記載

石鏃（1）

1は黒曜石製の石鏃で、幅広の鍬形鏃である。

掻器（2、3）

2は黒曜石製の掻器で、貝殻状の剥片の側縁に刃部が形成されている。

3はチャート製の掻器で、幅広剥片の両側縁に刃部が入念に形成されている。

削器（4）

4は頁岩製の不規則な剥離をした幅広剥片の一側縁に刃部が形成されている。

剥片（5～8）

5～8は幅広の剥片である。5が黒曜石、6、7が凝

灰岩、8がチャートである。

石核（9～11）

9～11は打点を横位に移動して、幅広剥片を剥がした石核である。9は凝灰質砂岩の扁平な円礫を素材とする。10、11は凝灰質頁岩の角礫を素材としている。

特殊磨石（図29：12～15）

12は砂岩、13～15は安山岩の細長い円～亜円礫を素材とし、1側縁に磨面が形成されている。

磨石（図29：16～18）

16は砂岩、17、18は安山岩の細長い円礫を素材とし、平らな面を磨面としている磨石である。

2）石器の時期

特殊磨石は形態からは、とりわけ縄文時代早期に特徴的なものである。掻器、削器をはじめとする石器群は、縄文時代早期～前期を主体とする市道遺跡の石器群とほぼ共通する形態のものである。

8　平安時代の土器（図30～35、図版30～32）

1）1号住居址

坏（1～4）

土師器の1、3、4は赤褐色～灰褐色で、2は橙褐色で、ロクロ調整で底部は糸切り底である。

椀（5、6）

黒色土器の5は1/4の口縁部破片で、ロクロ調整の土師器の内面をみがき、内面のみに黒色処理したものである。

6は黒色土器の底部である。坏と同様な調整のもので、高台をつけて、なで調整されている。

甕（7）

7は土師器の大型の甕で、全体にロクロ調整をおこない、下半部はタタキ目で調整されている。

墨書土器（図35：3、36）

1号住居址の坏に、2点確認された。3は「田」、36は不明である。

2）2号住居址

坏（8～10）

土師器の8、9は口縁部と底部の小さな破片である。10は黒色土器である。

椀（11～14）

11～14は黒色土器である。ロクロ調整で底部は糸切り底である。坏、椀ともに黒色土器はロクロ調整の土師器の内面をみがき、内面のみに黒色処理したものである。

甕（15、16）

15、16は土師器の大型の甕の底部で、回転糸切り後、ヘラケズリがおこなわれている。全体にロクロ調整をおこない、15はナデ調整がおこなわれている。

羽釜（17）

17は土師器の羽釜である。ロクロ調整である。

3）3号住居址

坏（18、20、22）

土師器の18、20は口縁部と底部の小さな破片である。黒色土器の22はロクロ調整の土師器の内面をみがき、内面のみに黒色処理したものである。

椀（19、21）

黒色土器の19、21がある。19は内面がよく磨かれており、薄れているが内面に黒色処理を施されたものと思われる。

小型甕（23）

23は土師器の口径15cm以下の小型甕である。ロクロ調整である。

甕（25～27）

25は土師器の大型の甕で、全体にロクロ調整し、内面をナデ調整し、下半部はタタキ目で調整されている。26、27は土師器のロクロ調整の大型の甕である。26の胴部は、縦方向に薄くケズリ調整されている。

片口鉢（24）

24は土師器の片口鉢で、ロクロ調整の後、内面に横位のヘラミガキがおこなわれ、内面に黒色処理が施されたものである。

灰釉陶器（28）

28は瓶と思われる大形の灰釉陶器の底部である。

4）住居址以外

坏（29、30、32～34）

29、30はやや小ぶりな土師器の坏である。黒色土器の32、33はロクロ調整の土師器の内面をみがき、内面のみに黒色処理したものである。34は、厚手で口縁部がやや

内湾する器形を呈する。内面は丁寧なヘラケズリがおこなわれ、内面のみに黒色処理がおこなわれている。

椀（31）

31は土師器の椀で、ロクロ調整し、内面と口台をナデ調整している。

皿（35）

35は灰釉陶器の皿である。

5）時期

1～3号住居址の坏は、点数は少ないながら土師器と黒色土器で構成され、土師器がやや多いという点で共通する。このことから、3軒の住居址はほぼ同時期か、近い時期のものと推定される。坏の土器構成からは、長野県教育委員会（1990）の食器の15期区分に従えば、軟質須恵器を含まないことから10期以降のものであり、2号住居址に伴う羽釜は11期以降に現れるものであり、3号住居址には灰釉陶器が伴うことからも、平安時代の後半の特徴を示している。したがって、11期かそれより少し後となり、10世紀後半から11世紀前半のものと推定される。遺構外の遺物も、ほぼ同じ時期のものと思われる。

信濃町でこの時期を代表するものは、丸谷地遺跡1号住居址（中村ほか1994）、2号住居址、丸谷地遺跡4号住居址・6号住居址（中村編1999）、上山桑遺跡（中村2004）などであり、平安時代遺跡が信州の山間部にも多くなる時期だと思われる。

9　まとめ

本調査では、3軒の平安時代住居址が検出され、縄文時代早期～前期の遺物が出土した。縄文時代では、早期前半の表裏縄文土器、押型文土器、早期後半の沈線文土器、絡条体圧痕文土器などが、前期では諸磯a～c式期の縄文土器、竹管文土器などが出土した。縄文時代の主要な遺物分布は、隣接する旧牟礼村地籍の低湿地に濃密に広がっていた。平安時代の住居址は、10世紀後半から11世紀前半の特徴をもつものである。

今回の調査で、山間地のなかの谷ぞいの低湿地とその背後の緩傾斜地に平安時代集落が形成されていたことが判明した。信濃町では、縄文時代中期以降、遺跡がほとんど分布しなくなり、その傾向は古墳、奈良時代まで続くが、平安時代の中ごろには、このような高冷地にも、街道から離れたところに人が住むようになったことがうかがえる。信州の古代史を見る上で、興味深い遺跡立地の資料になると思われる。

引用文献

小熊博史（1989）縄文時代早期終末における絡条体圧痕文土器の一様相、新潟県中魚沼地方の資料を中心に．信濃、第41巻４号、243-270.

長野県教育委員会（1990）松本市内その１、総括編．中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書、４．

中村由克編（1999）大久保南遺跡（４次）ほか発掘調査報告書、後期旧石器時代前半の遺跡．信濃町教育委員会、53P.

中村由克編（2000）仲町遺跡（個人住宅地点）ほか発掘調査報告書、後期旧石器時代前半と平安時代の遺跡．信濃町教育委員会、57P.

中村由克（2001）市道遺跡発掘調査報告書、押型文土器と諸磯ｂ式・ｃ式併行期の遺跡、信濃ゴルフクラブ用地内の遺跡．信濃町教育委員会、310P.

中村由克（2004）上山桑A遺跡発掘調査報告書、信濃町の縄文早期・沈線文系土器の遺跡．信濃町教育委員会、63P.

中村由克・中村敦子（1994）丸谷地遺跡・大道下遺跡発掘調査報告書、平安時代住居址・押型文土器の遺跡．信濃町教育委員会、78P.

野尻湖人類考古グループ（1993）仲町遺跡、第6回陸上発掘の考古学的成果．野尻湖博物館研究報告、１号、113-166.

吉岡康暢監修（1989）珠洲の名陶．珠洲焼資料館

綿田弘実編（1993）向六工遺跡・十二遺跡・野口遺跡・古司遺跡・子尾入遺跡．中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書、12.

図1　発掘遺跡位置図

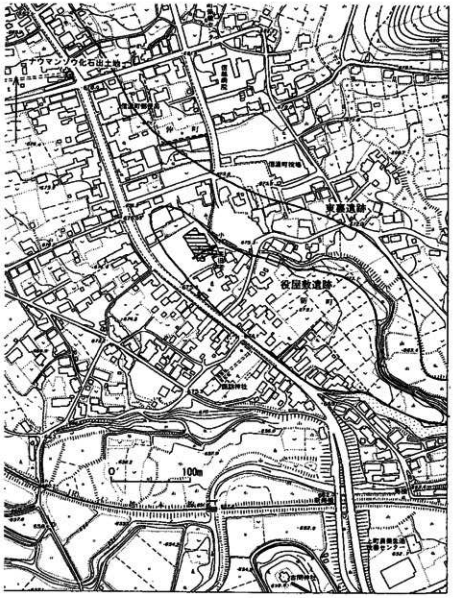


図2　役屋敷遺跡の発掘位置

図3　柏原57、59番地付近と文政10年（1827）の町並み

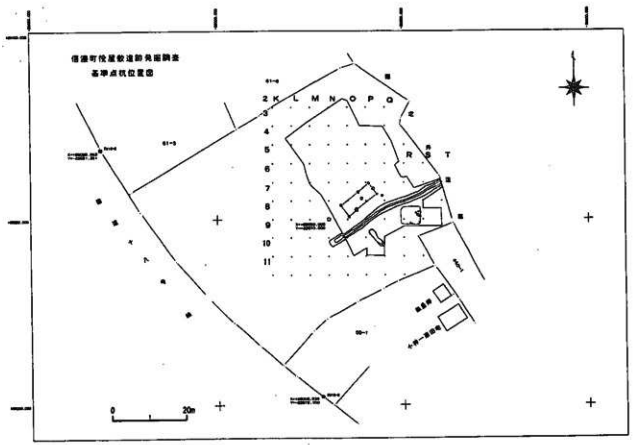


図4　役屋敷遺跡のグリッド位置図

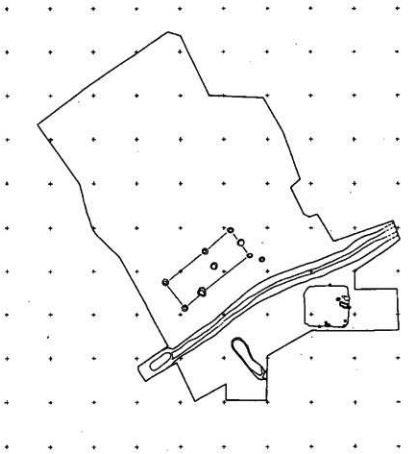


図5　役屋敷遺跡の遺構配置図

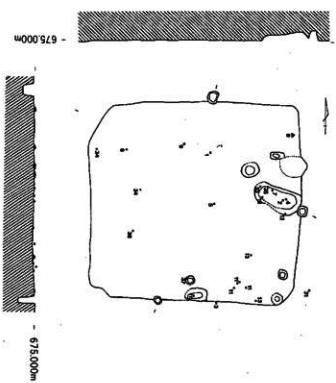


図6　平安時代の住居址

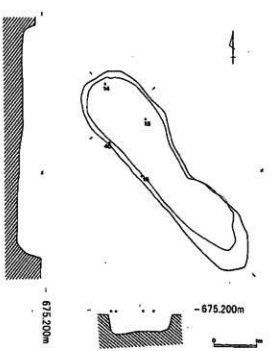


図7　平安時代の土壙

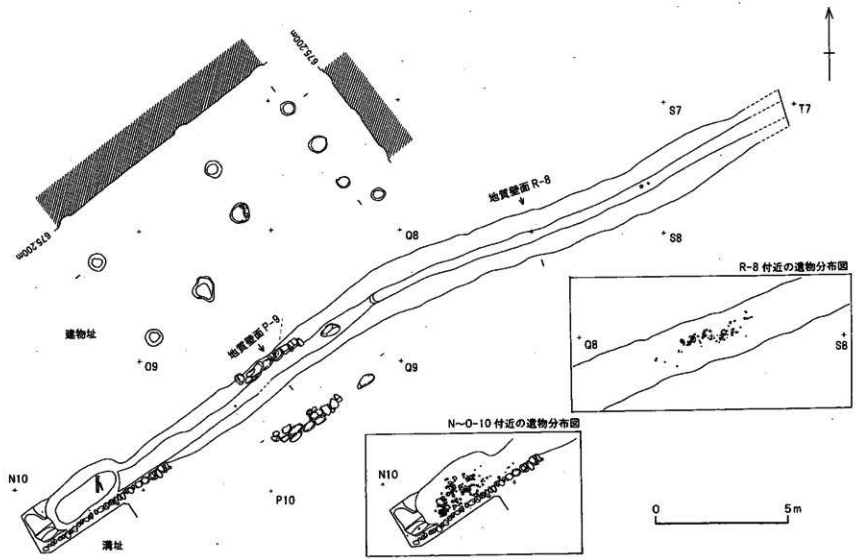


図 8　近世の遺構　溝址と建物址

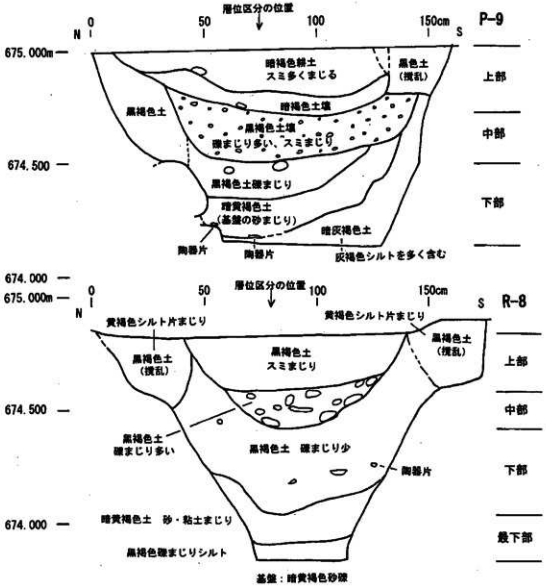


図9　溝址覆土の地質記載

表1　役屋敷遺跡の平安時代の出土遺物一覧

1. 役屋敷1号住居址

	種類	器種	口径	底径	器高	残存	特徴	遺物番号
1	紡錘須恵器	坏		6.4		底部のみ	回転糸切り	92YK R8-38
2	黒色土器	〃	11.4				黒色処理が不十分で口縁部茶褐色	SB1-204
3	〃	〃					黒色処理が不十分で口縁部茶褐色	SB1-189
4	〃	〃						SB1-66
5	〃	〃		5.8		底部のみ	回転糸切り	R8-94
6	〃	(椀)	11.9					R8-51
7	土師器	小型壺	12.8				ロクロ調整、外面に入スが付着	SB1-52
8	〃	〃	14.8			口縁部のみ	ロクロ調整、内面にカキメ	SB1-14,17,18 カマド南
9	〃	〃		7.5		底部のみ	回転糸切り、7と同一個体?	R8-45
10	〃	〃		7.1		〃	回転糸切り	SB1-43
11	〃	壺	23.0			口縁部	ロクロ調整	SB1-118,120,183,184,193
12	〃	〃				底部	外面へラ削り、平底	SB1-78
13	〃	〃					〃 やや丸底	SB1-130,173

2. 役屋敷1号土壙

NO.	種類	器種	口径	底径	器高	残存	特徴	遺物番号
14	黒色土器	坏	12.3			口縁部		92YKP9-8
15	〃	鉢		10.8		底部	外面、底部へラ削り	92YKP9-44 SD1-R8中
16	土師器	壺				口縁部	ロクロ調整	92YKP10-27

3. 役屋敷 その他

NO.	種類	器種	口径	底径	器高	残存	特徴	遺物番号
17	黒色土器	坏	14.2					92YKSD1-R7
18	〃	〃						SD1-R8底
19	〃	〃		5.8		底部	回転糸切り	SD1-R7
20	紡錘須恵器	〃						SD1-R9
21	土師器	〃		5.8		底部	回転糸切り	SD1-O8中下
22	黒色土器	椀				〃		SD1-O8
23	〃	皿	13.7					
24	土師器	小型壺	11.2					SD1-R8底
25	〃	〃		7.0		底部	ロクロ調整 回転糸切り	SD1-R7
26	〃	〃		5.9		〃	ロクロ調整	R7-23
27	〃	壺	21.5				〃	
28	〃	〃	21.8			口縁部	〃	O6-11,12
29	〃	〃	23.8			〃		SD1-S7粘土
30	〃	〃		8.4		底部		SD1-N9,10中
31	須恵器	〃				頸部		SD1-R8下
32	〃	小壺						SD1-R7,あげ土

4. 役屋敷遺跡出土の土錘

NO.	種類	長さ(cm)	最大径(cm)	孔径(mm)	重さ(g)	遺物番号	備考
33	管状土錘	5.4	1.5	4.0	10.1	92YKSB1-151	1号住居址出土 先端が斜めに小欠
34	〃	3.9	1.4	2.5	6.2	SB1-25	1号住居址出土 完形、黒色
35	〃	4.1	1.4	4.4	10.0	SB1-47	1号住居址出土 完形、
36	〃	4.5	0.9	3.5	3.8	R8-107	1号住居址出土 両端が斜めに小欠
37	〃	4.3	1.2	4.1	6.3	R9-18	1号住居址出土 先端が斜めに小欠
38	〃	3.7	1.3	3.5	6.5	SB1-48	1号住居址出土 先端欠損
39	〃	2.2	1.2	4.3	2.2	R8-132	1号住居址出土 先端欠損
40	〃	2.9	1.2	4.0	4.0	P9-54	1号土壙出土 先端欠損
41	〃	4.4	1.2	3.5	5.6	P10-24	完形
42	〃	5.2	1.4	4.5	9.7	SD1-S7上中	先端が斜めに小欠
43	〃	5.6	1.7	5.5	15.6	SD1-S7上中	〃
44	〃	5.0	1.3	3.5	8.6	SD1-R7	完形
45	〃	4.7	1.4	4.0	8.4	R7-25	先端が斜めに小欠
46	〃	4.3	1.4	4.2	7.7	R7-24	完形
47	〃	4.4	1.2	4.5	8.7	SD1-R7	先端が斜めに小欠
48	〃	4.5	1.2	4.2	8.7	SD1-R7	両端が斜めに小欠
49	〃	2.2	1.2	4.9	2.8	O8-53	両端欠損

表2　役屋敷遺跡の近世以降の出土遺物一覧1

NO.	出土地点	種別・器種	底径	口径	器高	時期		特徴
1	SD1-Q8下	磁器・染付碗	4.3	10.3	5.9	18c	肥前系	赤絵,金彩,文様は格狭間松と若草文,見込は枝梅繋ぎ
2	SD1-P8下	〃　〃	4.3	10.3	5.9	〃	〃	〃
3	SD1-N9,10下	〃　染付碗蓋	4.3	10.8	2.9	〃	〃	
4	SD1-Q8中	〃　染付碗	4.6	6.6	5.3	〃	〃	草花文,湯のみ
5	SD1-O9 N9,10下	〃　染付皿	15.2	21.8	2.7	〃	〃	金彩,獅子に牡丹文,底裏「大明成化年製」
6	SD1-R8上	〃　〃	8.5	14.5	3.9	〃	〃	見込菊花文,弧線地紋に格子,丸文,蛇ノ目凹形高台
7	SD1-P8中	〃　〃	8.2	13.9	4.1	〃	〃	見込五弁花、コンニャク判
8	SD1-P8下	〃　白磁小皿	5.3	8.3	1.7	〃	〃	異形皿,(手塩皿)三蓋松
9	SD1-Q8中(下) N9中	〃　染付瓶	5.6			〃	〃	油壺,文様は梅一枝
10	SD1-R7最下	〃　染付そば猪口		9.4		〃	〃	
11	SD1-P8中	〃　〃		8.5	6.7	〃	〃	焼けている
12	SD1-Q8中	〃　染付碗				〃	〃	二重網目文
13	SD1-N9,最下 P8上面	〃　染付皿	7.2			〃	〃	蜂と草花(?)文,上手
14	SD1-O9	〃　〃		(14.2)		〃	〃	
15	SD1-P8上(中)	陶器・碗	4.7	11.6	7.3	〃	〃	
16	SD1-S7底	〃　〃	4.3			〃	〃	
17	SD1-N9上中	〃　〃	5.3			〃	〃	
18	SD1-S7底	〃　〃	3.9		5.7	〃	〃	呉須による染付
19	SD1-P8下(中)	〃　〃		9.2		〃	〃	貫入
20	SD1-R7	磁器・染付蓋付碗(碗)	3.8	10.4	5.8	19c	〃	胡蝶文,見込松竹梅繋ぎ
		(蓋)	3.7	8.8	2.5			
21	SD1-R7	〃　染付碗	4.2	10.9	6.3	〃	〃	石垣文,見込松竹梅繋ぎ,焼継ぎがみられる
22	SD1-R7	〃　染付碗蓋	3.8	9.3	2.7	〃	〃	〃　〃
23	SD1-O9	〃　染付碗	4.2	12.0	6.2	〃	〃	見込松竹梅繋ぎ,焼継ぎが見られる
24	SD1-S7中	〃　〃	4.1	9.8	5.5	〃	〃	鶴文,見込月に鳥文,焼継ぎが見られる
25	SD1-N9上(中)	〃　〃	3.4	6.8	6.3	〃	〃	湯のみ,網目文
26	SD1-R8下	〃　染付小杯	3.9	6.7	4.7	〃	〃	並草葉文
27	SD1-R8中	〃　染付そば猪口	6.5	8.4	6.5	〃	〃	氷裂文,見込五弁花,蛇ノ目凹形高台
28	SD1-R7	〃　染付鉢	7.5	16.1	7.0	〃	〃	笹に明り障子文,蛇ノ目凹形高台,焼継ぎが見られる
29	SD1-R7	〃　染付皿	7.6	13.3	2.5	〃	〃	藤文,見込松竹梅繋ぎ,蛇ノ目凹形高台
30	SD1-R7	〃　〃	8.0	14.6	4.2	〃	〃	口銹,山水文,蛇ノ目凹形高台,貫入
31	SD1-R7	〃　〃	7.7		4.2	〃	〃	〃　〃　〃
32	SD1-R7	〃　〃	9.3	13.3	2.7	〃	〃	山水文,蛇ノ目凹形高台
33	SD1-	〃　〃	8.9	12.9	2.7	〃	〃	〃　〃
34	SD1-P8中	〃　〃	9.6	13.0	2.7	〃	〃	〃　〃
35	SD1-P10	〃　〃	8.0	13.4	3.7	〃	〃	笹に楼閣文,〃
36	SD1-P8中	〃　〃	9.2	13.7	2.9	〃	〃	山水文,蛇ノ目凹形高台
37	SD1-R8下	〃　〃	8.8			〃	〃	〃　〃
38	SD1-R7最下	〃　〃	8.4			〃	〃	蛇ノ目凹形高台
39	SD1-O9	〃　〃		21.3		〃	〃	
40	SD1-N9上中	〃　〃		20.4		〃	〃	
41	SD1-P8	〃　染付碗(広東碗)		11.2		〃	〃	
42	SD1-N9上	〃　〃	5.9			〃	〃	
43	SD1-N9,10下	〃　〃				〃	〃	
44	SD1-N9上	〃　〃	6.0			〃	〃	
45	SD1-	〃　〃				〃	〃	
46	SD1-O9	〃　〃		12.1		〃	〃	
47	SD1-N9, 10下	〃　染付向付		9.4		〃	〃	あざみ文
48	SD1-O9	〃　染付碗	3.5			〃	〃	湯のみ,格子に笹文
49	SD1-P8中	〃　〃	3.2		5.1	〃	〃	〃
50	SD1-S7(上)中 P8中, O8	〃　染付そば猪口		6.6		〃	〃	交叉草文
51	SD1-N9, 10下	〃　染付瓶	4.7			〃	〃	
52	SD1-R8上,Q8 Q8	〃　染付徳利				〃	〃	蛸唐草文
53	SD1-P9上	〃　染付鉢				〃	〃	
54	SD1-R8下	〃　〃				〃	〃	
55	SD1-P8中	〃　染付碗				〃	〃	円文
56	SD1-O9, P8中	〃　〃				〃	〃	〃
57	SD1-N9下	陶器・徳利				江戸後期	瀬戸・美濃	
58	SD1-N10上	〃　〃				19c	〃	
59	SD1-O9	〃　油差し				19c前	〃	灯具
60	OB-12	〃　甕				江戸後期	〃	半胴甕
61	SD1-S7上(中)	陶器・植木鉢	9.0			江戸後期	〃	火入に再利用している
62	SD1-O9 N9上(中)	〃　〃				19c前	〃	ルス釉
63	SD1-Q8下	磁器・染付碗	4.4	6.7	5.5	幕末—明治	〃	湯のみ,並草葉文
64	SD1-R7	〃　〃	3.0	7.8	4.1	〃	〃	〃,円文
65	SD1-R8下	〃　〃	4.6	11.7	6.0	〃	〃	
66	SD1-Q8中	〃　〃	4.5	11.2	5.2	〃	〃	
67	SD1-Q8中	〃　〃	3.8	11.0	5.2	〃	〃	花文
68	SD1-N9,10下	〃　〃		9.4	4.5	〃	〃	〃
69	SD1-N9中	〃　〃		8.8	4.2	〃	〃	
70	SD1-O9	〃　〃		9.6	5.0	〃	〃	あやめ
71	SD1-P8中	〃　〃	7.2			〃	〃	花文,焼き継ぎがみとめられる,補修痕
72	SD1-S7上(中)	〃　〃		9.8	4.9	〃	〃	花文
73	SD1-Q8下	〃　〃	3.9			〃	〃	笹文
74	SD1-O9	〃　〃				〃	〃	円文,湯のみ
75	SD1-O9	〃　〃				〃	〃	花文
76	SD1-P8上中	〃　〃	3.6			〃	〃	見込花文
77	SD1-N9最下	〃　〃		9.0		〃	〃	湯のみ
78	SD1-O9	〃　〃		7.8		〃	〃	〃
79	SD1-N9,10下	〃　〃		9.0		〃	〃	〃, 円文
80	SD1-Q8	〃　〃		8.4		〃	〃	口銹
81	SD1-O9	〃　〃	4.1	11.0	4.8	明治〜	〃	見込寿字文
82	SD1-R7	〃　〃	4.0	11.0	5.8	〃	〃	〃
83		〃　〃				〃	〃	松文
84		〃　〃	4.0		5.7	〃	〃	見込寿字文
85	SD1-S7上	〃　〃	4.1	8.1	4.8	〃	〃	山水文
86	SD1-O8	〃　染付坏	3.2	6.6	4.5			京焼風
87	SD1-O9	〃　染付急須						〃
88	SD1-R8中	〃　染付碗	4.1	12.2	6.6			寿字文
89	SD1-N10 中	〃　〃	4.7	10.5	6.3			

表3　役屋敷遺跡の近世以降の出土遺物一覧2

NO.	出土地点	種別・器種	底径	口径	器高	時期		特徴
90	SD1-P8下中	〃　〃	3.5	7.3	5.8			湯のみ
91	SD1-S7上	〃　〃	3.0	6.5	4.3			〃
92	SD1-N9中	〃　〃		6.8	4.7			〃
93	SD1-Q8中	〃　染付坏	3.3	6.6	4.5			
94		〃　〃	2.8	8.0	4.5			
95		〃　〃	2.8		4.5			
96	SD1-R8中	〃　白磁皿	6.8	12.0	3.5			蛇ノ目凹形高台
97	SD1-O9－21	〃　染付皿		14.6	3.2			径に櫛目文,蛇ノ目凹形高台
98	SD1-S7上(中)底	〃　染付徳利						
99		陶器・徳利	8.3					
100	SD1-N9下	〃　〃						
101		〃　〃	7.8					
102	SD1-N9,10中	〃　〃	9.2					
103	SD1-P7上	〃　〃	8.9					
104	SD1-P8中	〃　土瓶		5.5				
105	SD1-R7	〃　〃		7.3				
106	SD1-S7 最下	〃　〃	6.6					
107	SD1-Q8中	〃　灯明具	5.4					有脚受け付皿
108	SD1-N9下	〃　片口	7.8	18.8	7.8			
109	SD1-	〃　甕	15.2	32.8	33.3			
110	SD1-N9,10下 P7ピット	〃　〃	19.8					底部「分」墨書,素焼き
111	SD1-S7上中 R8中	〃　〃	13.2					〃,「五アスロロ迄」墨書
112	SD1-O9	〃　〃	12.1	15.6				
113	SD1-Q8 P8中	〃　〃		11.0				
114	SD1-N8,9中下 N9下, P8中, O9-28	〃　大徳利					瀬戸・美濃	
115	SD1-	〃　片口？	10.8	21.0	9.4			底部「二」墨書
116	SD1-S7上中 N9下, N8,9中	〃　すり鉢		33.6				
117	SD1-P8中 P8上中	〃　〃	13.6					
118	SD1-N9下 N8,9中	土器・ほうろく	30.3	33.3	5.5			
119	SD1-R8中	〃　〃	31.3	32.1	4.7			
120	SD1-P8中	〃　〃	29.5	32.6	5.1			
121	SD1-N9最下 N9,10下	〃　〃	29.3	31.6	5.0			
122	SD1-N9下	火鉢	16.2					
123	SD1-N9,10下	〃						
124	SD1-Q8	陶器・火鉢	15.8					底部「コイ」墨書
125	SD1-O9-4	土器・七輪						
126	SD1-P8下,Q8-47	炻器・片口？		13.2				
127	SD1-Q8中	碗	15.3	5.9	2.4			
128	SD1-Q8中	〃		6.8	1.9			
129	SD1-Q8中(下)	〃	1.9					
130		金属・煙管	5.3	1.1	0.9			雁首,銅
131		〃　〃	7.5		1.1			吸口,〃
132		〃　〃	5.8		0.9			〃,〃
133	SD1-N9	〃　かんざし	12.2					
134		〃　はさみ	16.7	3.5	0.5			にぎりばさみ
135	SD1-P8中	銭貨・文久永宝	2.7					草文通用銭(松平慶永書),銅,背波
136		〃　寛永通宝	2.4					銅
137	SD1-P8中	土人形		7.0	2.2			

NO.	出土地点	種別・器種	底径	口径	器高	時期		特徴
138	SD1-O9下	軒丸瓦			2.4			
139	SD1-N9,10下	平瓦			1.8			
140	Q8	土製・ふいご羽口	6.3	3.1	8.7			
141	SD1-N9下	〃　〃	5.7	2.7	8.3			
142	SD1-N9下	〃　〃	8.0	4.4	16.0			
143	SD1-N9下	〃　〃	6.4	3.1	17.0			
144	SD1-P8中	〃　〃	7.3	2.6	9.9			
145	SD1-P8 中	〃　〃			11.0			
146	SD1-N9排土	安山岩・砥石	7.9	4.6	1.8			
147	SD1-N9上(中)	〃　〃	5.6	4.6	1.5			
148	SD1-N9,10下	〃　〃	8.0	3.3	3.3			
149	SD1-S7 底	〃　〃	6.2	2.7	1.1			
150	SD1-O8-37	〃　〃	5.3	5.2	1.1			
151	SD1-S7底	〃　〃	7.5	5.3	2.2			
152	SD1-N9,10	凝灰岩・砥石	8.8	3.2	2.3			
153	あげ土	〃　〃	6.2	4.3	2.7			
154	SD1-N8,9中下	〃　〃	5.5	2.4	2.3			
155	SD1-P8 上・中	〃　〃	8.8	5.9	1.8			
156	SD1-Q8中	〃　〃	5.9	3.9	2.9			
157	SD1-O9	〃　〃	7.8	3.9	1.8			
158	SD1-P8中	〃　〃	4.4	4.9	1.2			
159	SD1-S7上(中)	〃　〃	5.0	4.7	1.2			
160	SD1-S7底	瓦	9.6	7.2	1.7			瓦の再利用
161	SD1-N9,10下	鉱滓						羽口の一部が付着している。

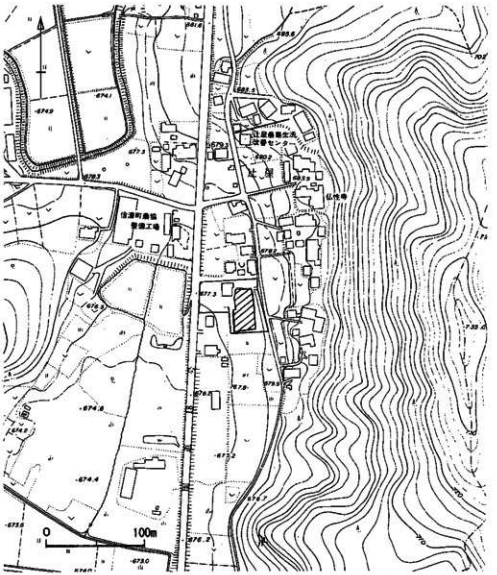


図10　辻屋遺跡の発掘位置

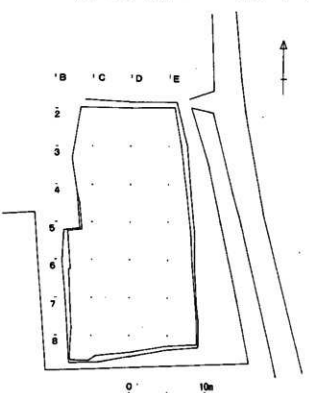


図11　辻屋遺跡のグリッド位置図

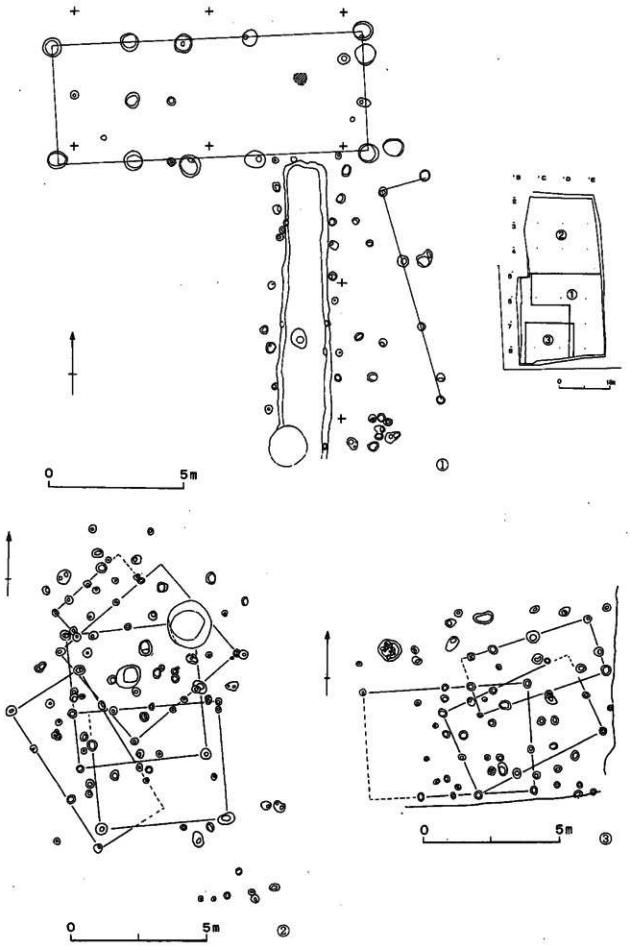


図12　辻屋遺跡の遺構　①中世の建物址と溝状遺構　②近・現代の建物址（北）　③近・現代の建物址（南）

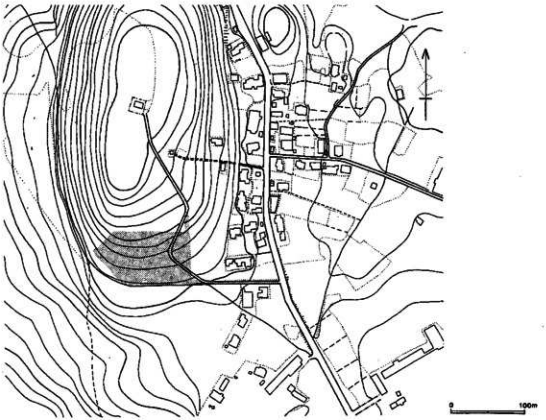


図13　西岡B遺跡の発掘位置

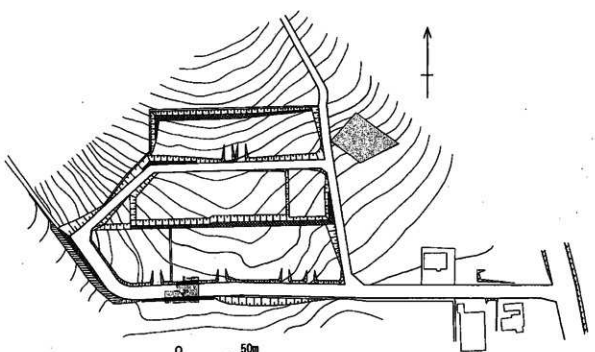


図14　西岡B遺跡の発掘位置　下：第1次調査（1993）、上：第2次調査（1996）

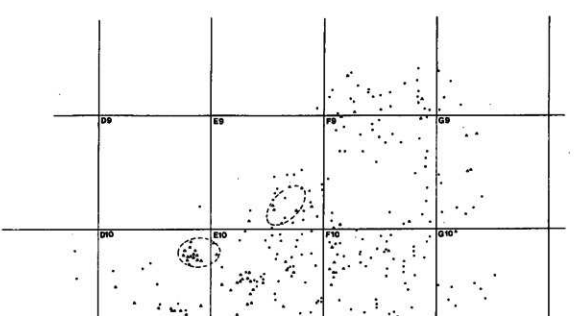


図15　西岡B遺跡第1次調査の遺物分布

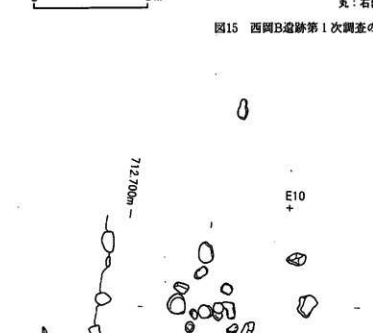


図16　上Ⅱ上部文化層の礫群　D10・E10グリッド

図17　黒色帯文化層の配石
E9グリッド

表4　西岡B遺跡第1次調査の出土資料

No.	グリット	石器(点)	礫(点)	合計(点)
1	C-10	1	3	4
2	C-11		2	2
3	D-9		1	1
4	D-10	13	57	70
5	E-8	1		1
6	E-9	20	8	28
7	E-10	49	25	74
8	F-8	22	4	26
9	F-9	29	5	34
10	F-10	49	8	57
11	G-8	5		5
12	G-9	7	4	11
13	G-10	11	1	12
	合計	207	118	325

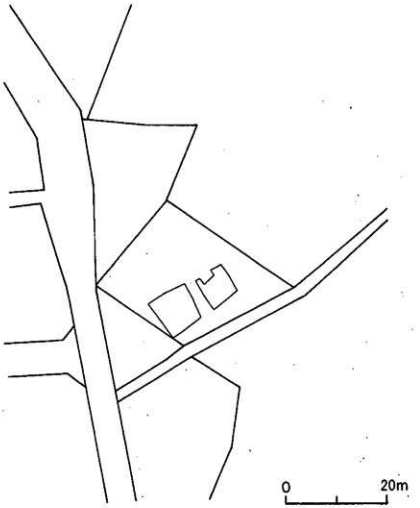


図18　西岡B遺跡第2次調査の発掘位置と遺物分布

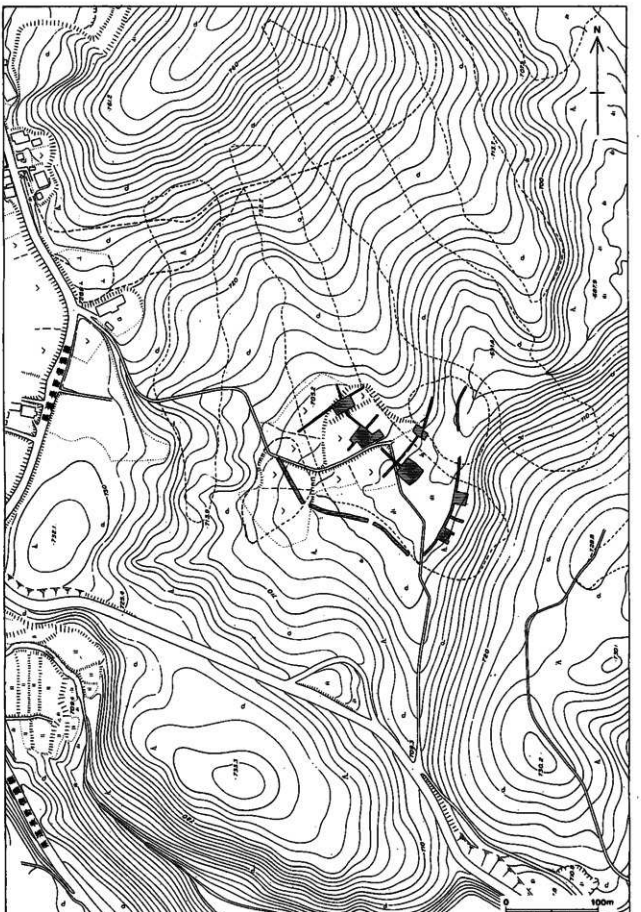


図19　清水久保遺跡の発掘位置図

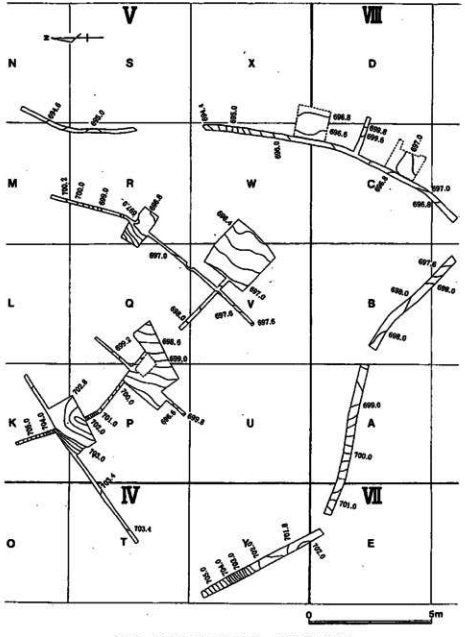


図20　清水久保遺跡のグリッド位置と標高

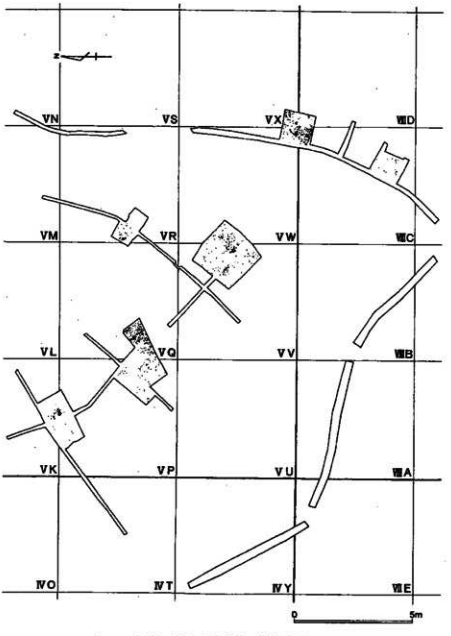


図21　清水久保遺跡の遺物分布

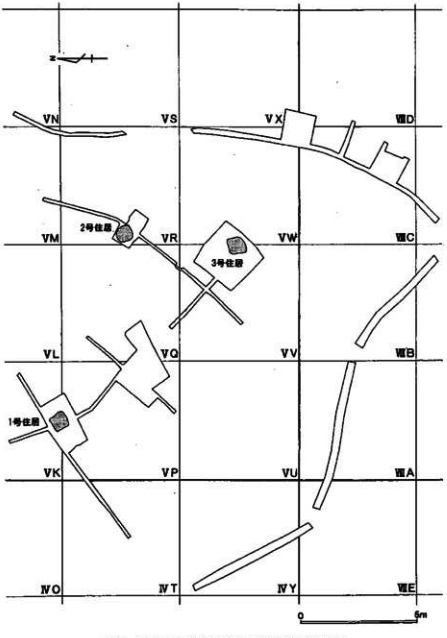


図22　清水久保遺跡の平安時代の遺構配置図

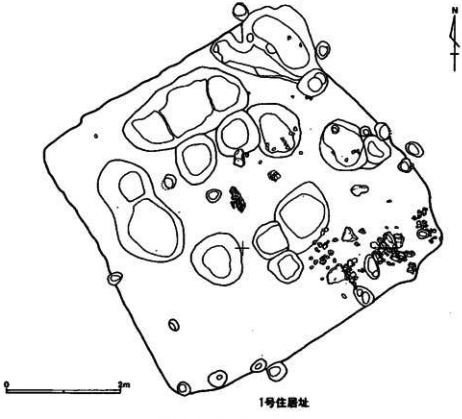


図23　平安時代１号住居址

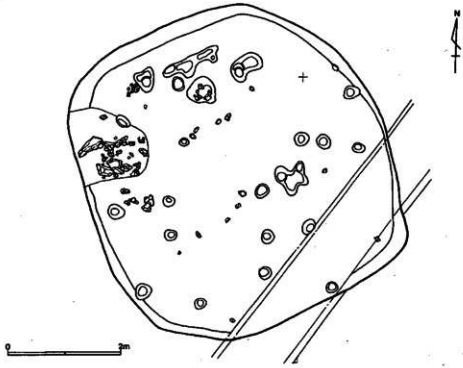


図24　平安時代２号住居址

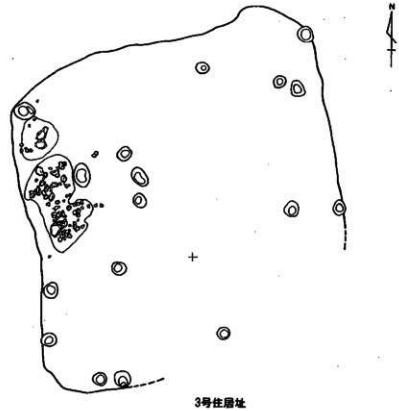


図25　平安時代３号住居址

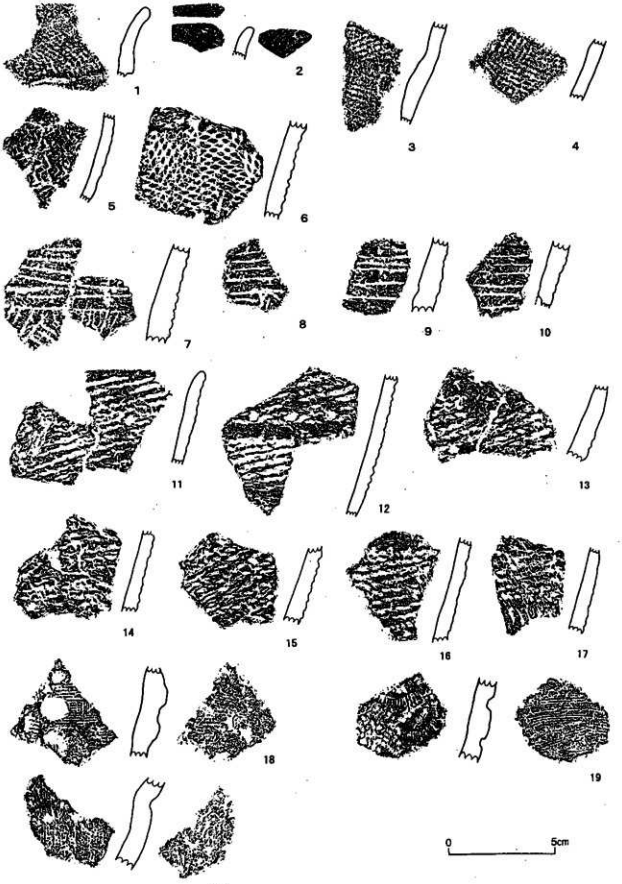


図26　清水久保遺跡の縄文土器1

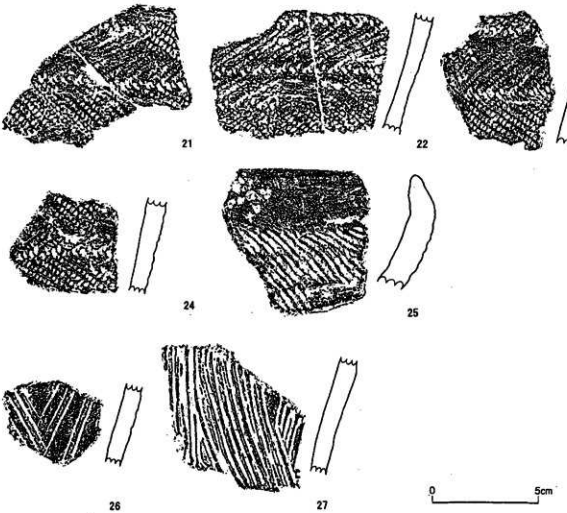


図27　清水久保遺跡の縄文土器 2

表 5　清水久保遺跡の石器一覧

No.	名称	石材	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
1	石錐	黒曜石	95SM 5PF8-1	1.8	1.9	0.3	0.6
2	スクレイパー	〃	95SM 5PH7-5	2.9	3.3	0.8	7.3
3	〃	チャート	95SM 5VG5-4	3.9	4.2	0.7	9.6
4	〃	凝灰岩	95SM 5VH5-18	6.0	8.2	1.5	81.2
5	剥片	黒曜石	95SM 5VH4-65	4.8	4.2	0.9	16.1
6	〃	凝灰岩	95SM 5VF4-7	4.2	4.8	0.9	14.5
7	〃	〃	95SM 5VG4-23	3.4	5.0	0.8	10.3
8	〃	チャート	95SM 5VH5-13	2.8	2.0	0.5	3.2
9	石核	凝灰質砂岩	95SM 5QA7-45	7.8	13.3	3.5	430.0
10	〃	凝灰質頁岩	95SM 5VG4-40	7.4	14.3	3.7	395.0
11	〃	〃	95SM 5VH4-69	6.3	11.2	4.1	270.0

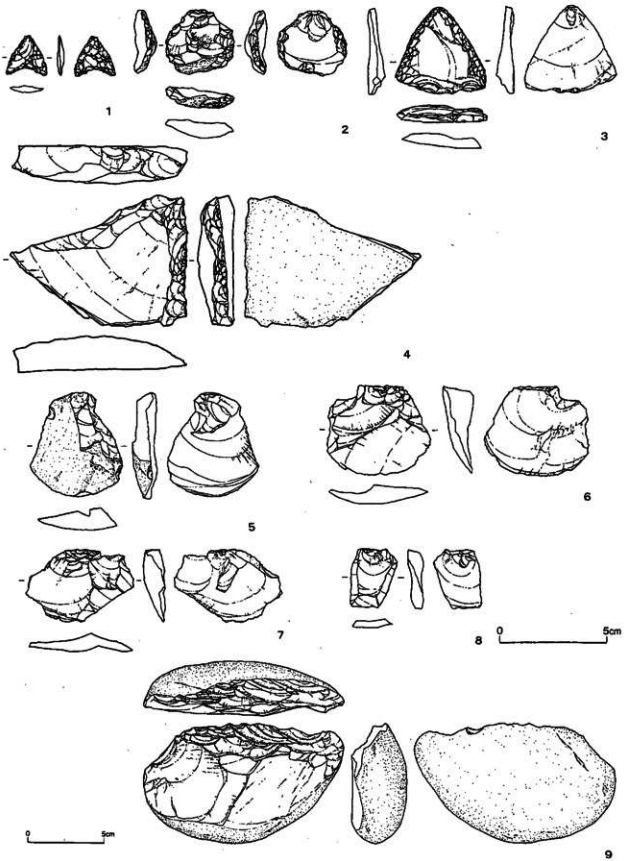


図28　清水久保遺跡の石器1

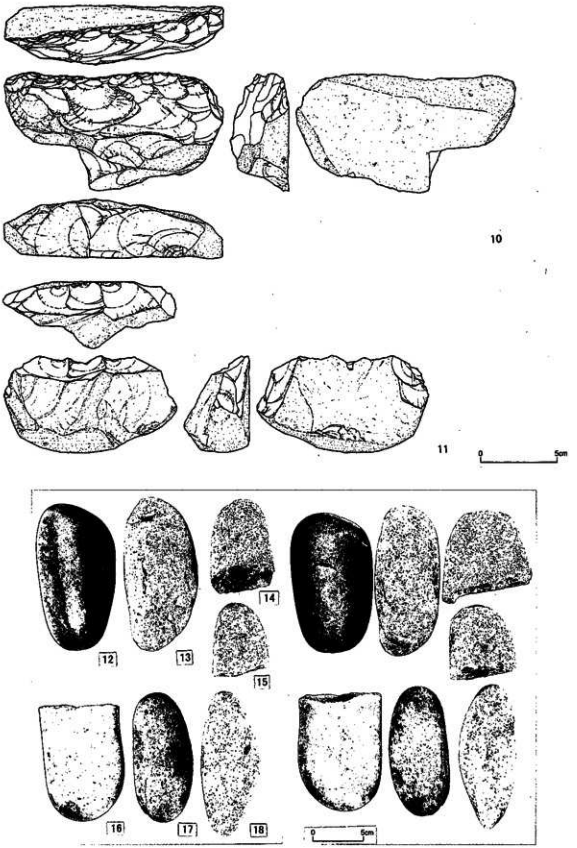
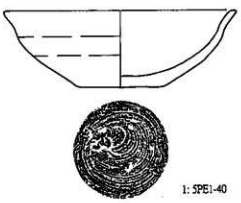
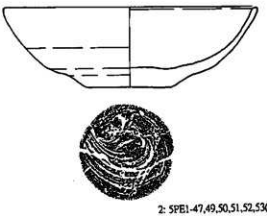


図29　清水久保遺跡の石器 2

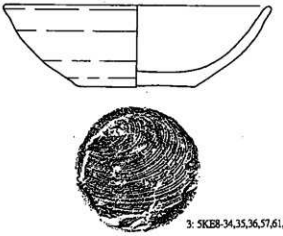
1 号住居址



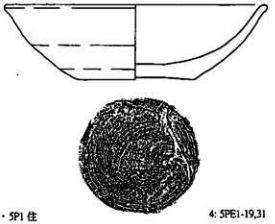
1: SPE1-40



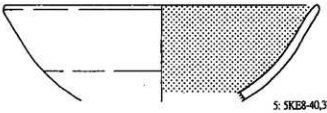
2: SPE1-47,49,50,51,52,53(2)



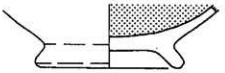
3: SKE8-34,35,36,57,61,62(2) ・SP1 住



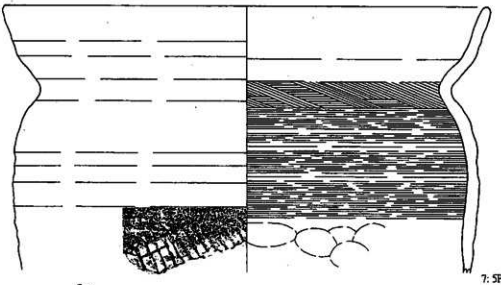
4: SPE1-19,31



5: SKE8-40,37(2)



6: SKE8-38,41,42,43



7: SPE1-55(2)

0 5cm

図30　清水久保遺跡の平安時代の土器 1　1 号住居址

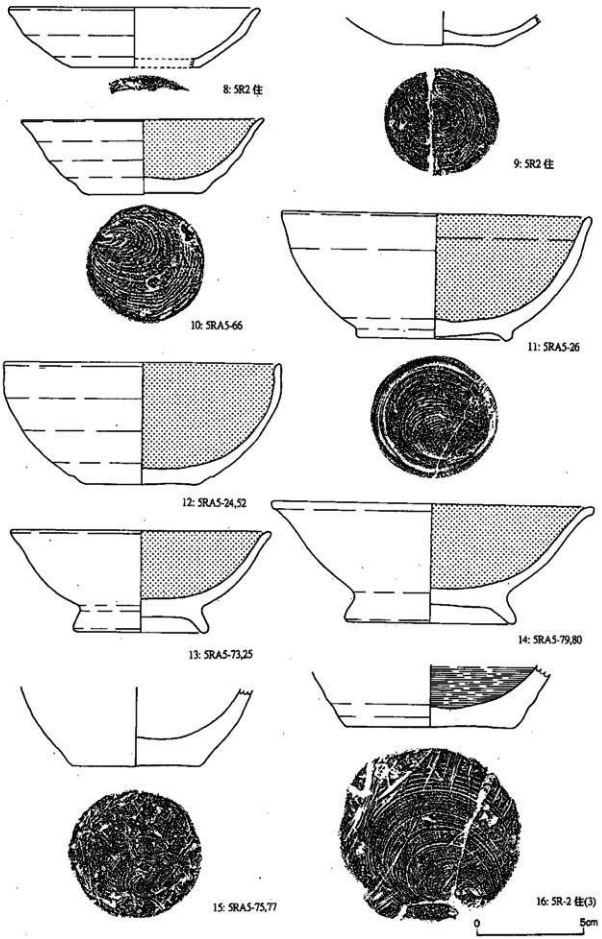
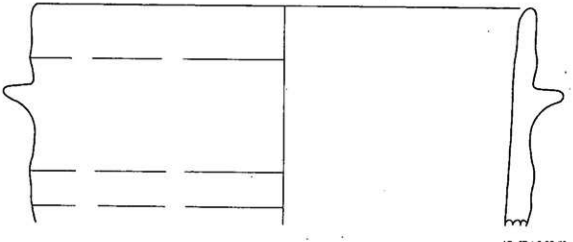


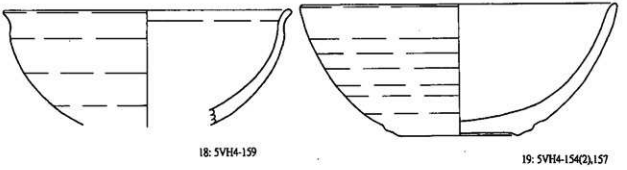
図31　清水久保遺跡の平安時代の土器 2　2 号住居址

2 号住居址



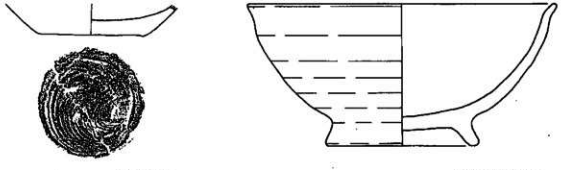
17: SRA5-39,53

3 号住居址



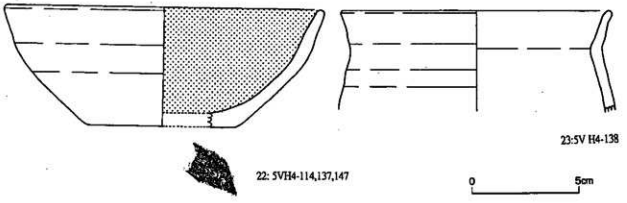
18: 5VH4-159

19: 5VH4-154(2),157



20: 5VH4-146

21: 5VH4-75,118,135



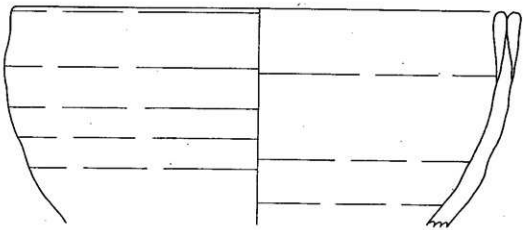
23:5V H4-138

22: 5VH4-114,137,147

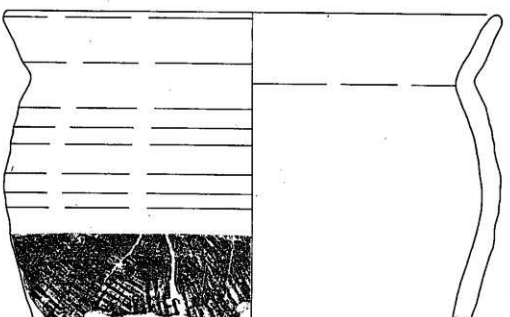
0 5cm

図32　清水久保遺跡の平安時代の土器 3　2 号住居址・3 号住居址

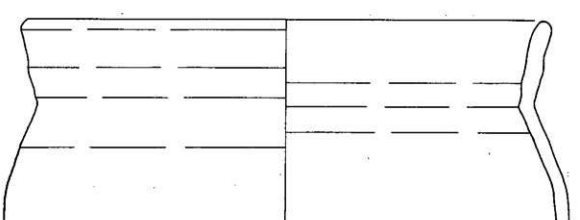
3 号住居址



24: SVH4-54,80,127,128



25: SVH4-59,96,97,101,102,103,104

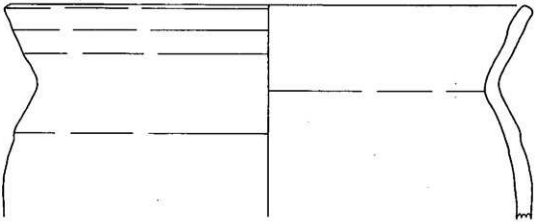


0 5cm

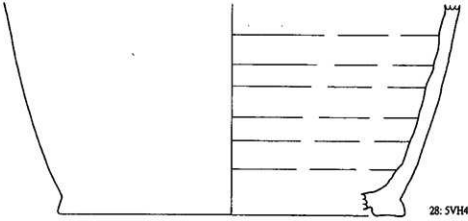
26: SVH4-25,77

図33　清水久保遺跡の平安時代の土器 4　3 号住居址

3 号住居址

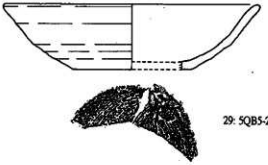


27: 5VH4-116

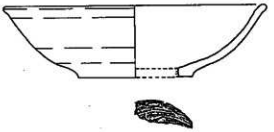


28: 5VH4-88,53

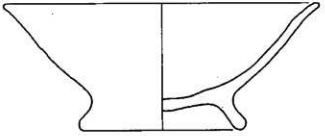
住居址以外



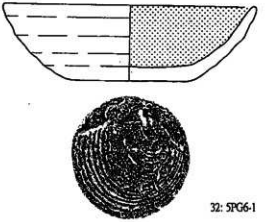
29: 5QB5-25,2731,46,137



30: 5QB6-22,117



31: 5VG4-1,2,3,4,8・F4-84

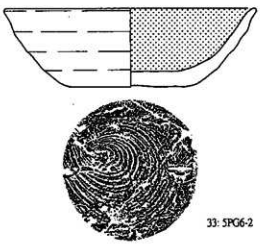


32: 5PG6-1

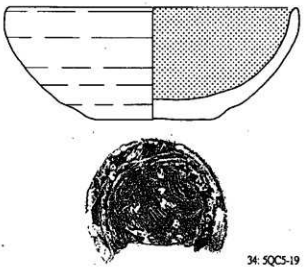
0 5cm

図34　清水久保遺跡の平安時代の土器 5　3 号住居址・住居址以外

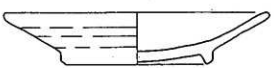
住居址以外



33: 5PG6-2



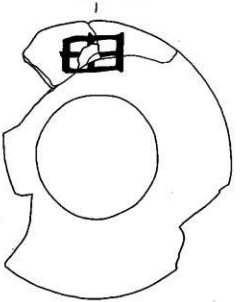
34: 5QC5-19



35: 5QB6-78,93・87-7

墨書土器

36: 5KE8-64



3: 5KE8-34,35,36,57,61,62(2)
SP1 住

0 5cm

図35　清水久保遺跡の平安時代の土器6　3号住居址・墨書土器

図版1　役屋敷遺跡

1　役屋敷遺跡　発掘区南部　中央が国史跡「小林一茶旧宅」（北より）

2　近世の溝址と建築址　右奥が平安時代住居址（西より）

3　平安時代1号住居址　かまどは奥（西側より）

図版2　役屋敷遺跡

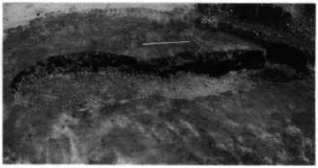
1　役屋敷遺跡発掘地（南から）

2　近世溝址の発掘風景

4　溝址についての検討　中村光夫氏（元信濃町教育長）

6　近世建物址　基礎のピットには中礫が埋められている。

3　近世溝址の発掘風景

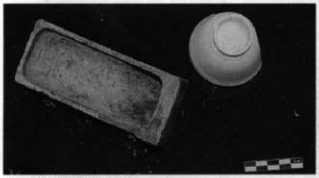


5　平安時代1号土壙

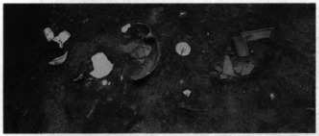
7　近世溝址の全景

図版3　役屋敷遺跡

1　溝址西端における遺物集中区



2　碗と染付碗の出土状況



3　ほうろくと染付碗の出土状況

4　染付碗（18C.赤絵）の出土状況

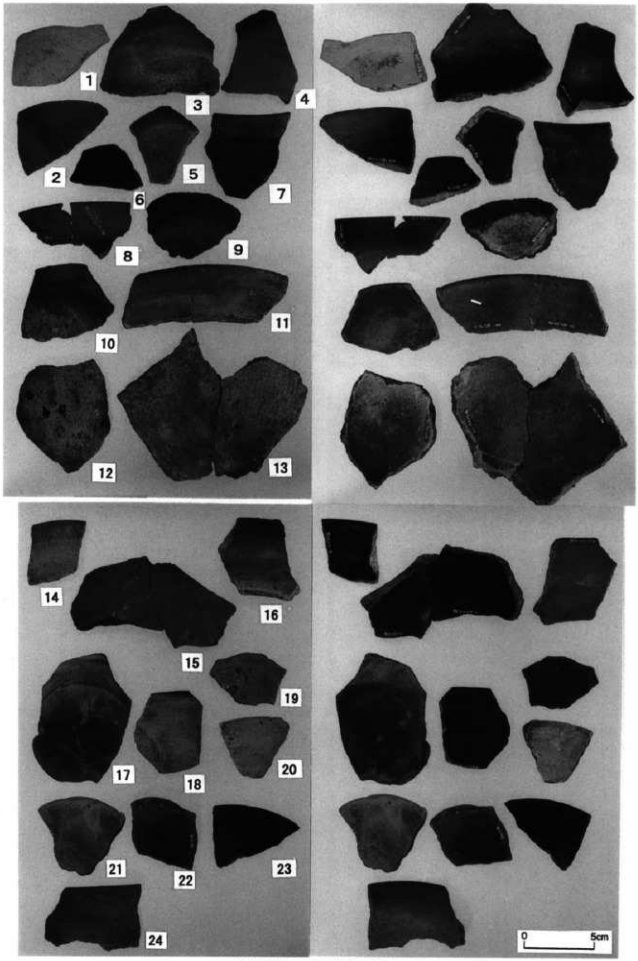
5　溝址の覆土　R－8付近（西より）

6　溝址の覆土　P－9付近（西より）

7　遺跡現地説明会（平成4年5月17日）

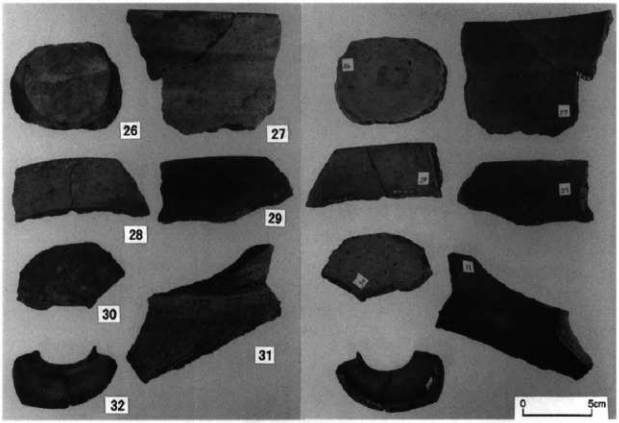
8　遺跡現地説明会（平成4年5月17日）

9　発掘調査参加者

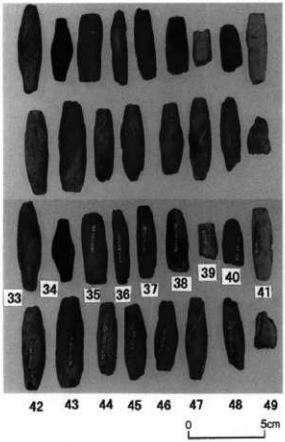


役屋敷遺跡の平安時代の土器1

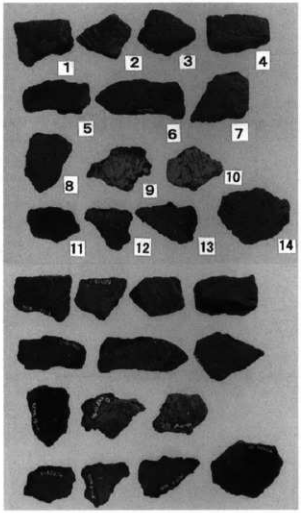
図版5　役屋敷遺跡



役屋敷遺跡の平安時代の土器2

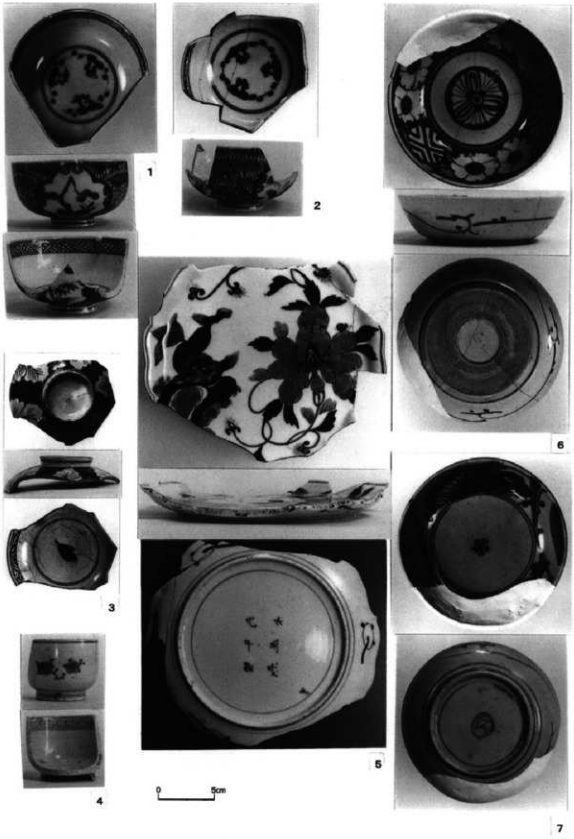


役屋敷遺跡の平安時代の土錘



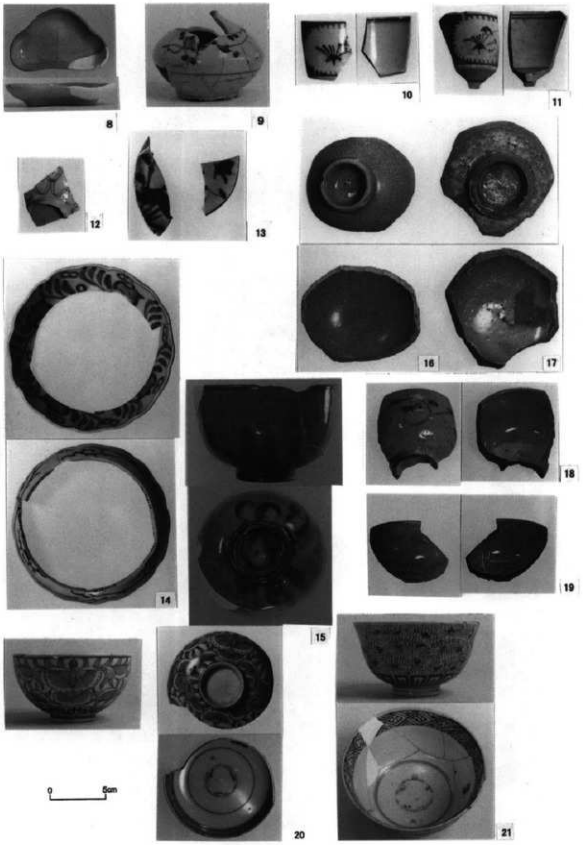
役屋敷遺跡の縄文土器

図版6　役屋敷遺跡

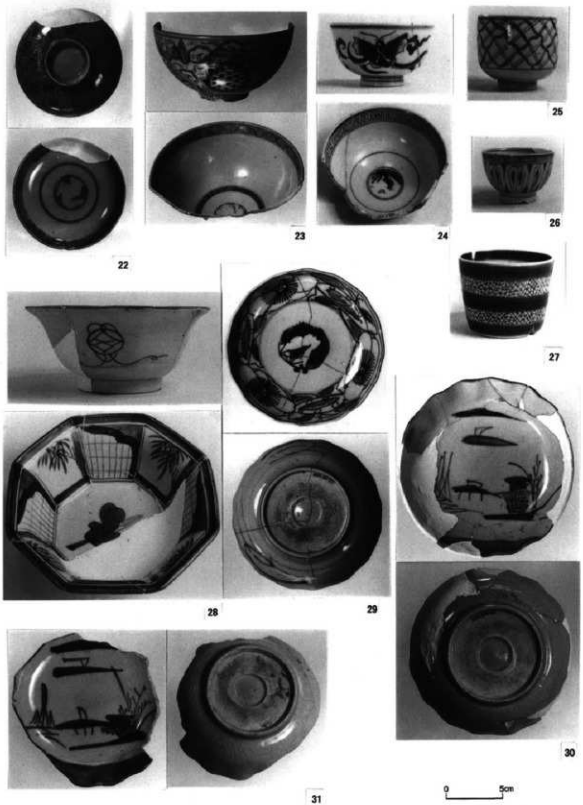


役屋敷遺跡の近世以降の陶磁器1

図版7　役屋敷遺跡

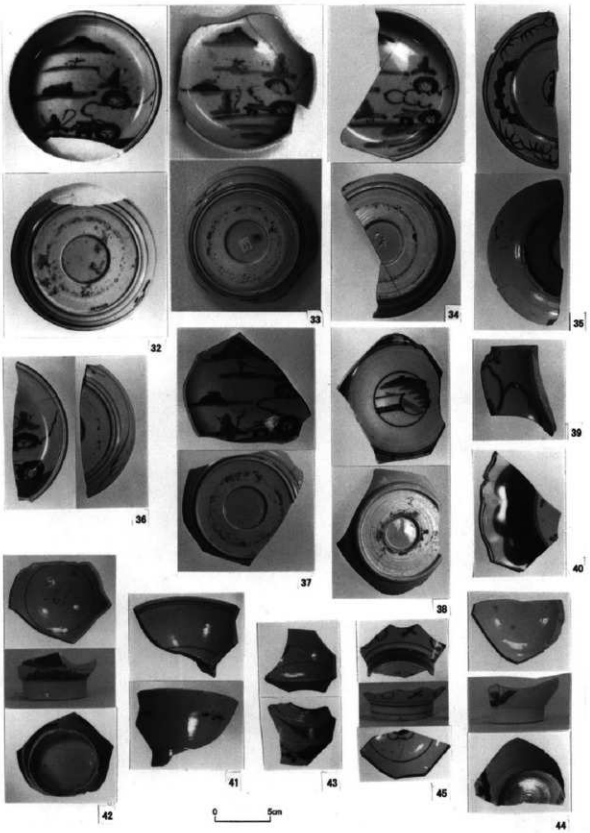


役屋敷遺跡の近世以降の陶磁器2

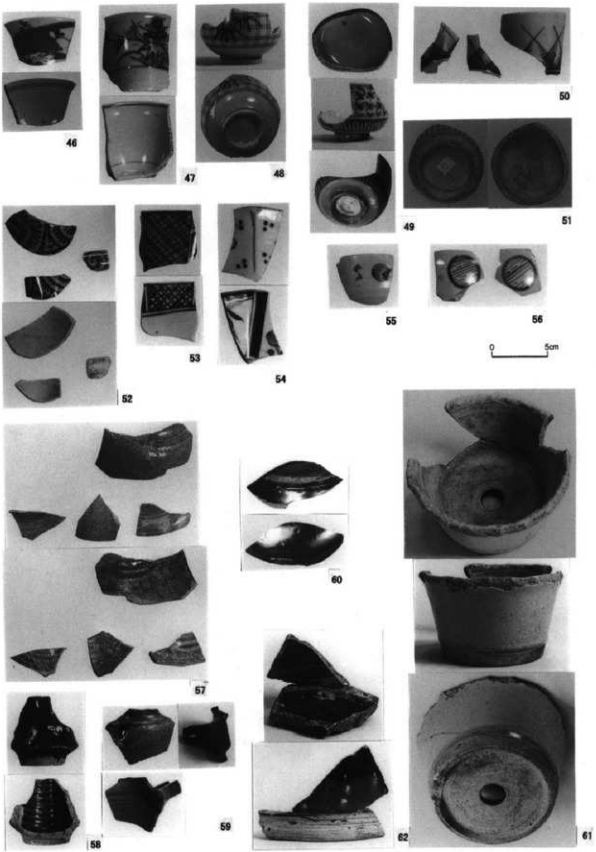


役屋敷遺跡の近世以降の陶磁器3

図版 9　役屋敷遺跡



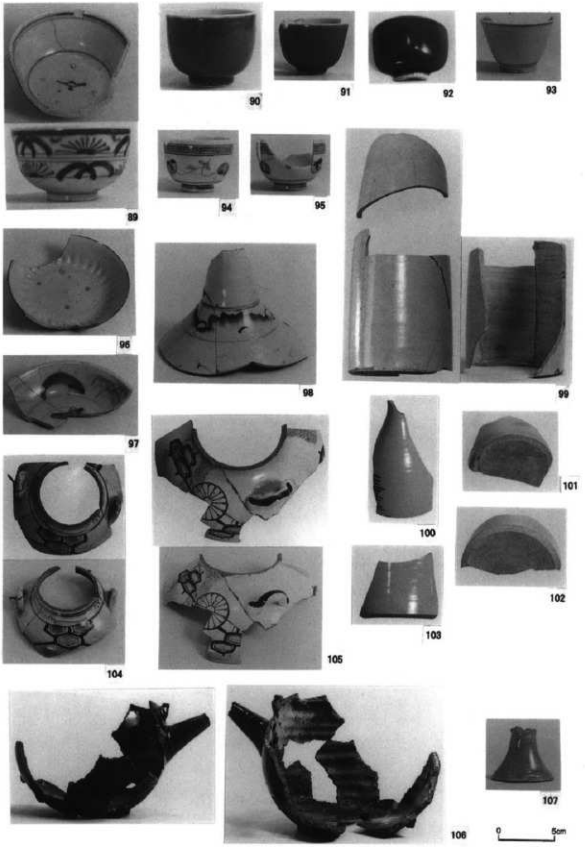
役屋敷遺跡の近世以降の陶磁器 4



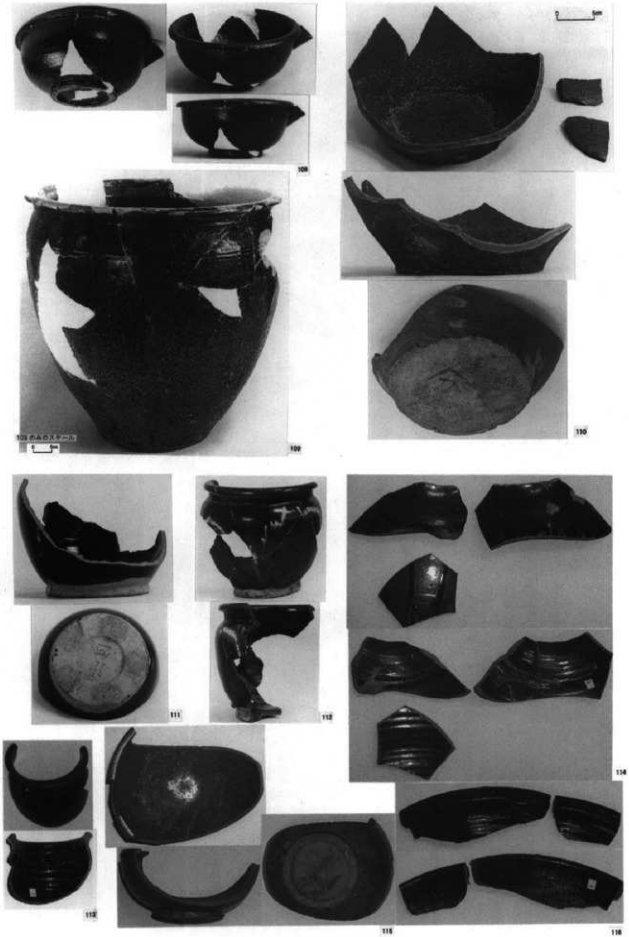
役屋敷遺跡の近世以降の陶磁器5

図版11　役屋敷遺跡

役屋敷遺跡の近世以降の陶磁器 6

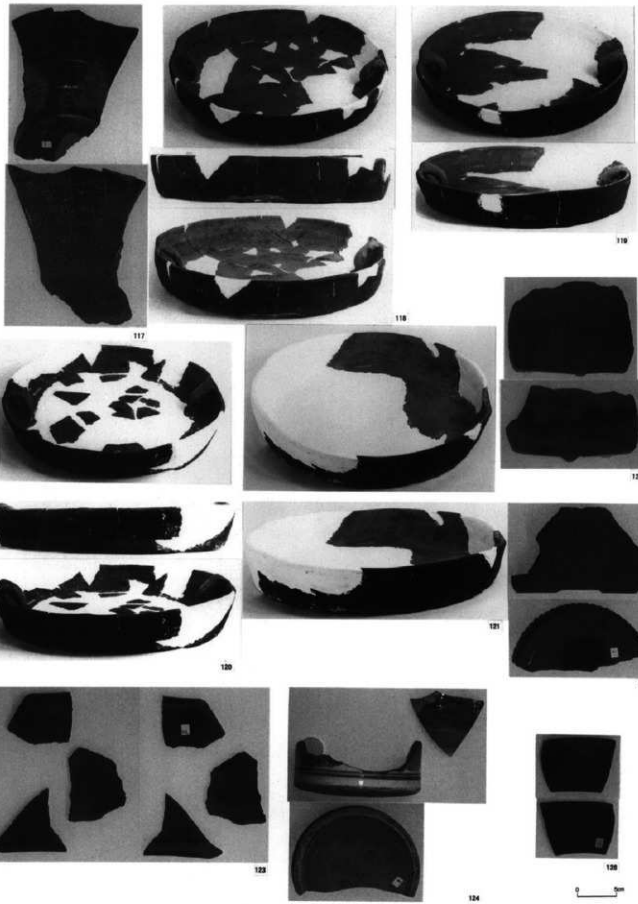


役屋敷遺跡の近世以降の陶磁器7



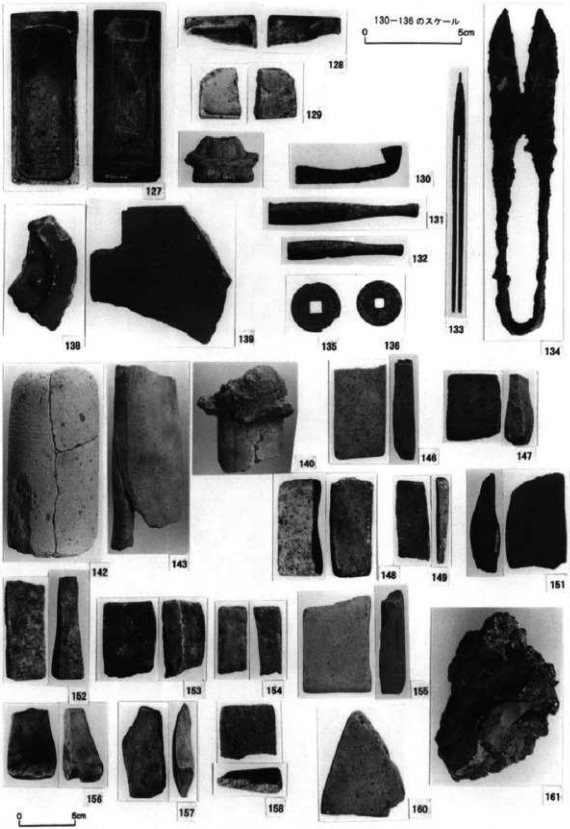
役屋敷遺跡の近世以降の陶磁器 8

図版14　役屋敷遺跡



役屋敷遺跡の近世以降の陶磁器 9

図版15　役屋敷遺跡



役屋敷遺跡の近世以降の出土品

図版16　辻屋遺跡

1　辻屋遺跡発掘地全景（南より）　中央が中世建物址と溝状遺跡

2　中世建物址　11.52×4.48m（西より）

図版17　辻屋遺跡

1　発掘地北部の近世以降の建物址
手前に井戸址が見られる。

2　中世溝状遺構　手前が井戸址

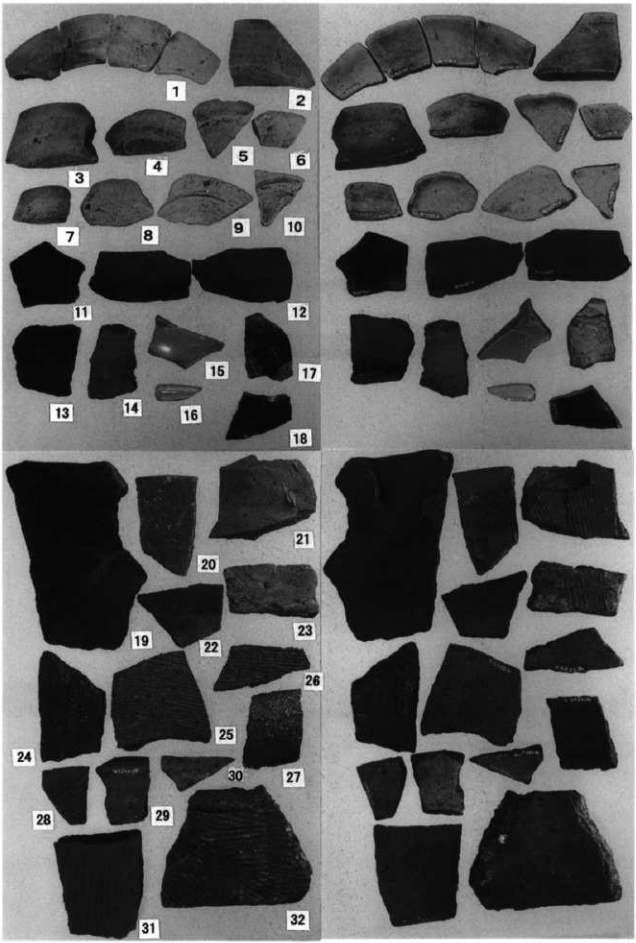
3　中世井戸址

4　発掘風景

5　発掘風景

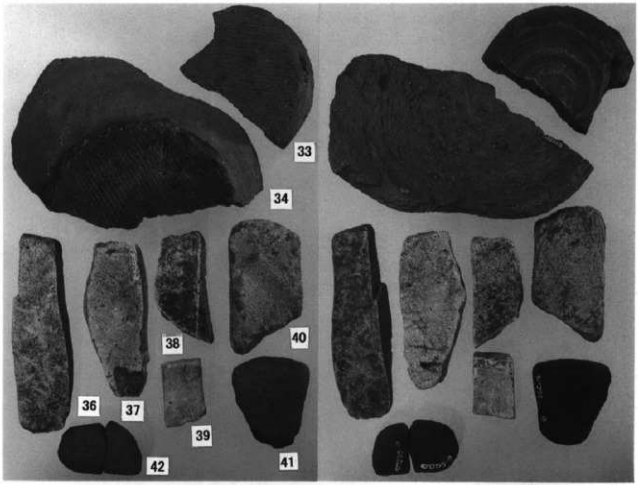
6　遺跡現地説明会（平成4年10月4日）

7　遺跡現地説明会（平成4年10月4日）

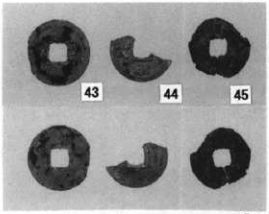

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
0
5cm

辻屋遺跡の陶磁器 1

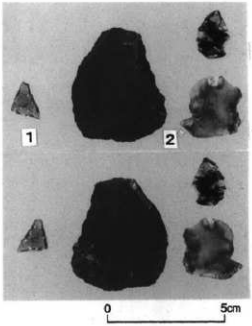
図版19　辻屋遺跡・役屋敷遺跡



辻屋遺跡の陶磁器２・砥石



辻屋遺跡の銭貨



役屋敷遺跡の縄文時代の石器

図版20　西岡B遺跡　第1次調査

1　発掘地全景

2　発掘風景　手前が上層（上Ⅱ上部）の礫群　奥は下層（黒色帯）の発掘

3　下層（黒色帯）の遺物出土状況　手前が敲石

図版21　西岡B遺跡　第1次調査

1　下層の発掘風景

2　下層（黒色帯）の配石付近の遺物出土状況

3　上層（上Ⅱ上部）の礫群

4　上層（上Ⅱ上部）の礫群　横より

5　局部磨製石斧

6　台形石器

7　敲石

8　下層（黒色帯）の配石

9　発掘参加者

図版22　西岡Ｂ遺跡　第２次調査

1　発掘地全景（西より　奥は国道沿い）

2　発掘風景（東より）

3　発掘風景

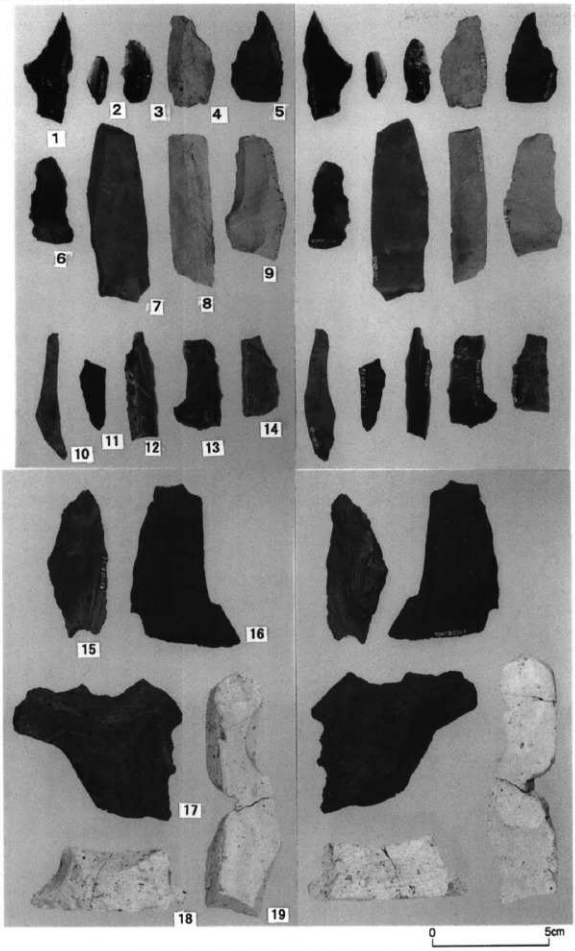
4　遺物出土状況

5　石核の出土状況

6　敲石の出土状況

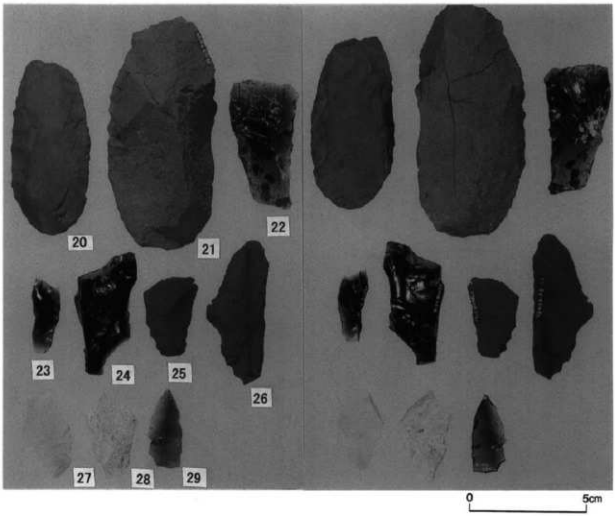
7　西岡Ｂ遺跡の地層

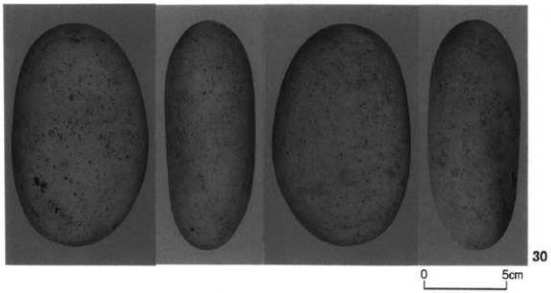
図版23　西岡B遺跡　第1次調査



第1次調査の出土石器　1-18：上Ⅱ上部文化層、19：黒色帯文化層

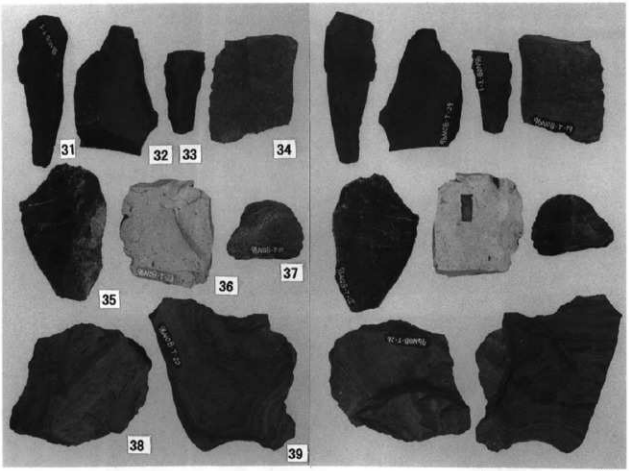
図版24　西岡B遺跡　第1次調査

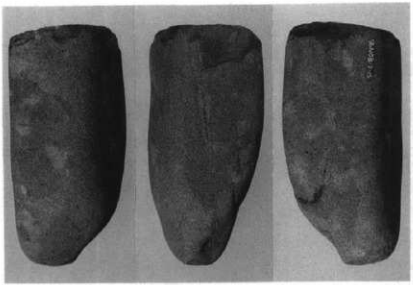




第1次調査の出土石器　20-30：黒色帯文化層

図版25　西岡B遺跡　第2次調査





第2次調査の出土石器

図版26　清水久保遺跡

1　1号住居址　かまどは右手前（南より）

2　2号住居址　かまどは奥（東より）

3　3号住居址　かまどは右側（北より）

図版27　清水久保遺跡

1　発掘地全景（南より）

2　試掘（トレンチ）発掘風景

3　平安時代住居址周辺の発掘

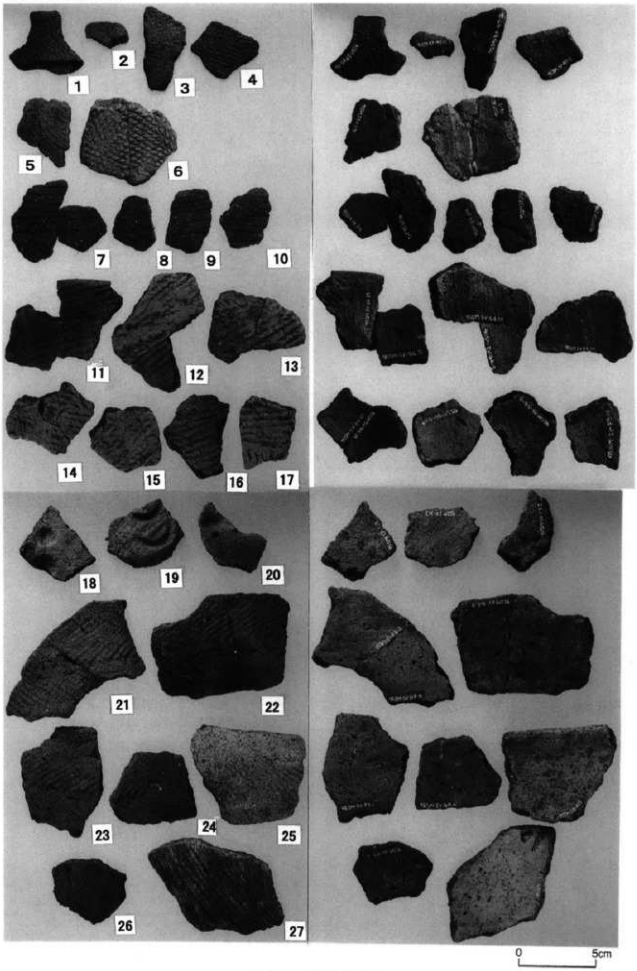
4　平安時代住居址の発掘

5　2号住居址の発掘

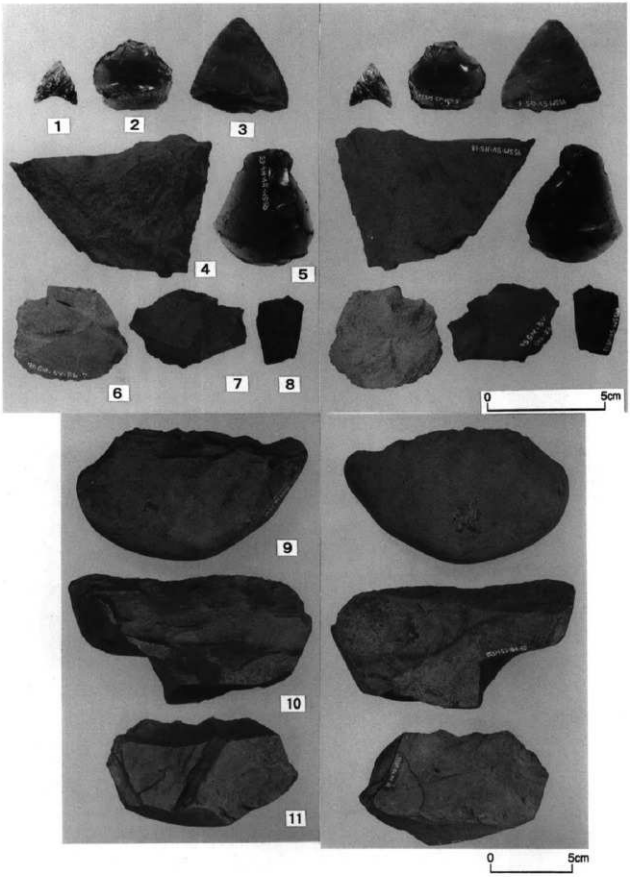
5　2号住居址の発掘

7　発掘地南部の自然礫の集中分布

8　発掘参加者

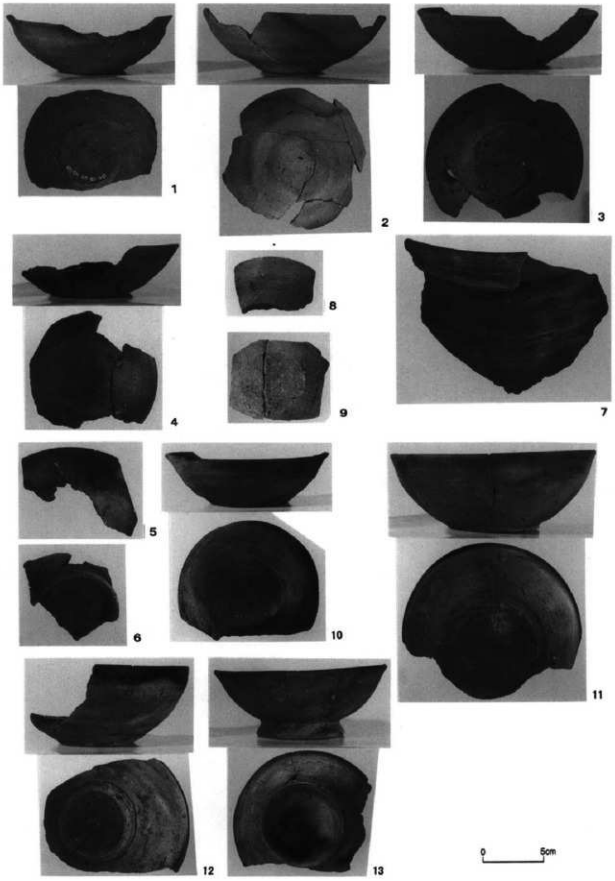


清水久保遺跡の縄文土器

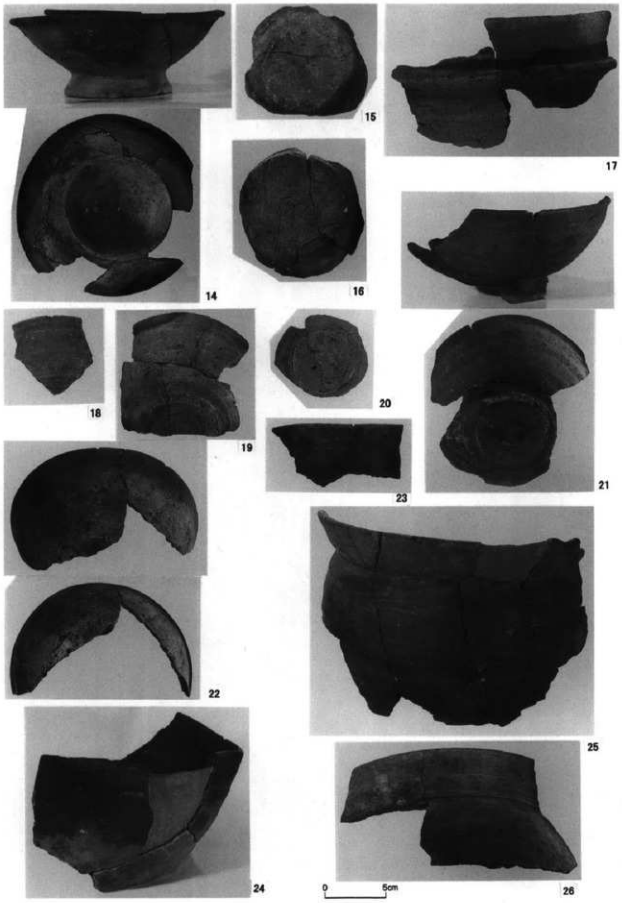


清水久保遺跡の石器

図版30　清水久保遺跡

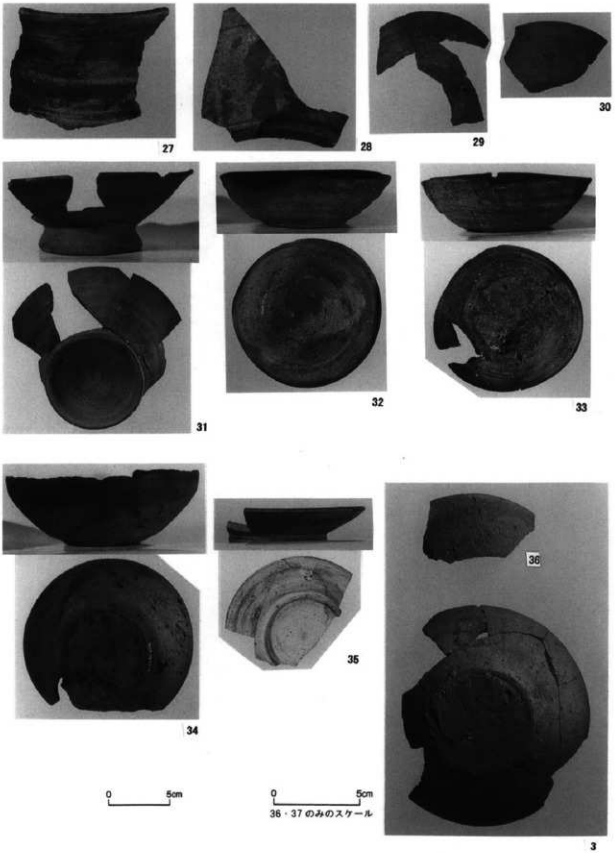


清水久保遺跡の平安時代の土器1



清水久保遺跡の平安時代の土器 2

図版32　清水久保遺跡



清水久保遺跡の平安時代の土器3

SUMMARY

1. The Yakuyashiki site is located at Yakuyashiki Kashiwabara, Shinano-machi, in the northern end of Nagano prefecture, Central Japan. It is situated in lat. 36° 48′ 19″ .N., long. 138° 12′ 22″ E., and is 675 meters above sea level. The excavation was carried out from April 4 to June 18 in 1992, by the Shinano Town Board of Education, prior to the construction of a store. The total excavation area is about 916 square meters.

The remains that totaled 812 were excavated from the cultural layer of the Kashiwabara Black Ash Formation, Holocene.

Most of the artifacts from the Yakuyashiki site belong to the Earliest Jomon Period, the Heian Period, and the Edo Period.

2. The Tsujiya site is located at Tsujiya Honami. The excavation was carried out from December 16 in 1991 to November 19 in 1992. The total excavation area is about 517.8 square meters.

Most of the artifacts from the Tsujiya site belong to the Muromachi Period.

3. The Nishioka B site is located at Oodaira Kashiwabara. The excavation was carried out from June 2 to June 18 in 1993, and July 11 to August 2 in 1996. The total excavation area is about 666 square meters.

The remains that totaled 361 were excavated from the two cultural layers of the Upper Nojiri Loam Member (Pleistocene). There were 231 pieces of Palaeolithic stone tools, 130 pieces of gravel and so forth.

Most of the artifacts from the Nishioka B site belong to the Palaeolithic Period.

Backed blade, trapezes, partially ground chipped stone axes and hammer stone were yielded from the lower layer of this site (the Black band of the Upper Nojiri Loam Member I). These stone tools belong to the early half of the late Palaeolithic Age, about 30,000～29,000 B.P.

Backed blade, scraper, graver, blade tools were yielded from the upper layer of this site (the upper horizon of the Upper Nojiri Loam Member II). These stone tools belong to the late half of the late Palaeolithic Age, about 20,000～15,000 B.P.

4. The Shimizukubo site is located at Mukouhara Ooi. The excavation was carried out from June 5 to September 12 in 1995. The total excavation area is about 1,500 square meters.

Most of the artifacts from the Shimizukubo site belong to the Earliest Jomon Period, and the Heian Period.

報告書抄録

書名	役屋敷遺跡ほか発掘調査報告書
副書名	―役屋敷遺跡・辻屋遺跡・西岡B遺跡・清水久保遺跡―
シリーズ名	信濃町の埋蔵文化財
シリーズ番号	
編著者名	中村　由克、中村　教子
編集機関	信濃町教育委員会
所在地	389-1305　長野県上水内郡信濃町柏原428-2　TEL 026-255-5923
発行年月日	2007年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
役屋敷遺跡（やくやしきいせき）	長野県上水内郡信濃町大字柏原字役屋敷59-6、59-7、57-6、57-ロ、54-ロ	205834	69	36度 48分 19秒	138度 12分 22秒	19920404～ 19920618	916	商業店舗建設
辻屋遺跡（つじやいせき）	長野県上水内郡信濃町大字穂波字南平	205834	151	36度 46分 24秒	138度 12分 47秒	19911216～ 19921119	517.8	事務所建設
西岡B遺跡（にしおかびーいせき）	長野県上水内郡信濃町大字柏原字西岡	205834	63	36度 49分 05秒	138度 11分 38秒	19930602～ 19930618	150	宅地造成工事
西岡B遺跡（にしおかびーいせき）	長野県上水内郡信濃町大字柏原字西岡1240-1	205834	63	36度 49分 05秒	138度 11分 38秒	19960711～ 19960802	516.51	移動電話アンテナ建設
清水久保遺跡（しみずくぼいせき）	長野県上水内郡信濃町大字大井字向原	205834	168	36度 46分 32秒	138度 12分 09秒	19950605～ 19950912	1,500	ゴルフ場造成工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
役屋敷遺跡	散布地	縄文時代 平安時代 江戸時代	住居址、土壙、建物址、溝址	総出土点数　812点 縄文時代：石鏃、縄文土器 平安時代：土師器、黒色土器 須恵器、土錘 江戸時代：陶磁器、砥石、ふいご羽口、硯、挟み、銭貨、瓦など	溝址より近世の陶磁器類が大量に出土した。一茶旧宅の4軒となりの位置で、生活用品が発掘された。
辻屋遺跡	散布地	室町時代	建物址　1 溝状遺構　1 井戸跡	土師質土器、青磁、古瀬戸、内耳鍋、珠洲焼、砥石など	中世の建物址、井戸跡が検出された。
西岡B遺跡	散布地	旧石器時代	礫群1 配石1	局部磨製石斧、台形石器、ナイフ形石器、彫器、スクレイパーなど	後期旧石器時代前半、後半の石器群が出土した。
西岡B遺跡	散布地	旧石器時代	なし	敲石、剥片、石核など	なし
清水久保遺跡	散布地	縄文時代 平安時代	住居址3軒	縄文時代早期・前期土器、平安時代：土師器、黒色土器、灰釉陶器など	縄文早期の土器と平安時代住居址から多くの土器が出土した。

（緯度・経度：世界測地系）

信濃町の埋蔵文化財

役屋敷遺跡ほか発掘調査報告書

－役屋敷遺跡・辻屋遺跡・西岡Ｂ遺跡・清水久保遺跡－

編集発行　信濃町教育委員会
長野県上水内郡信濃町柏原428－2

発行日　2007年３月30日

印　刷　信毎書籍印刷株式会社

〔この報告書についての連絡先〕
野尻湖ナウマンゾウ博物館
〒389-1303　長野県上水内郡信濃町野尻287-5
TEL 026-258-2090
FAX 026-258-3551

Archaeological Reports of Shinano-machi

Yakuyashiki Site
Tsujiya Site
Nishioka B Site
Shimizukubo Site

2007

Shinano-machi Board of Education,
Kamiminochi-gun, Nagano, 389-1305 Japan.